组合再建满七十周年記念

東 京 船 具

業

界

東京船具同業 组合

目 次

						頁
巻頭の言	東京船具同業組合理	理事長	杉田恵三	 •	•	1
70年史編纂にあた	ŋ		杉田恵三	 •	•	2
ご挨拶	東京船具同業組合	副理事長	田中嘉一	 •	•	5
70年の歩み	組合員の現状			 •	•	6
	組合員の変遷			 •	•	10
	役員の変遷			 •	•	13
	各社の創業・設立な	年		 •	•	14
近世からの江戸東	京船具業界の歴史			 •	•	15
江戸東京の主たる	船具商の歴史系統国			 •	•	29
座談会				 •	•	30
組合員各社概要				 •	•	39
編集後記				 •	•	56

巻頭の言

東京船具同業組合理事長 杉田恵三

「嘗つて鈴木弥兵衛、宇田川清兵衛氏等と共に東都船具業界に君臨した大村五左衛門老は、戦争末期の昭和十八年に八十四才の天寿を完うして此の世を去られた。」と格調高く始まる文章は昭和35年に発行された東京船具同業組合組合再建満十周年史における巻頭の言を書かれた当時の理事長加藤政次郎翁のものです。戦後の荒廃と復興が混然としたこの時代にあって、東京船具同業組合の先達の方々が編纂されたこの冊子には江戸時代から受け継ぐ歴史の基盤の上に、明治から戦前・戦後の間の船具屋の希望や苦心の末の栄枯盛衰を書き留め、そこから新しい時代を切り開いていくという自負と希望と活力に満ちた雰囲気が現れています。

ここから 60 年を経て、当組合も 70 周年を迎えました。この間は高度成長期~オイルショック~バブル期とバブル崩壊~成熟化社会~IT 化社会~リーマンショック~低成長~少子高齢化社会~AI の時代と、めまぐるしく移り変わっています。そして今年は昭和から新しい「令和」の時代になりました。これからの世界の中の日本、そして組合員各企業が何処へ向かって舵を切っていくのか、社会の仕組みが大きく変わり、多様な価値観が混在化し混迷していると思います。こうした中に会って、歴史の流れを振り返り、今の有様を記録する冊子を作ることとしました。本より 10 年史の内容には及びませんが、先達の方々の経験や知恵や生き様を学び、時代に応じて変化し対応してきた「船具屋」の魂を知ることで、これからの船具屋・企業人としての生き方を考える一助になればと考える次第です。

東京船具同業組合の企業が末永く繁栄し、船具屋の魂の火を灯し続けることを願っております。

編纂に当り各位の心からなる御協力を頂き、厚く感謝申し上げます。

70年史編纂にあたり

東京船具同業組は江戸から 400 年以上の長い歴史を持つ「船具工業・船具商業」の 様々な業種業態を有する企業の集まりです。この船具工業・商業の歴史は、大きく

「江戸期(黎明期~繁栄)」「明治・大正・昭和初期(近代企業経営化)」「昭和後期(戦後・高度成長期)」「平成(成熟社会・産業構造の変化への対応)」に大きく分かれ、今また新たな令和の時代迎えました。江戸時代は船が唯一の大量物資輸送手段だった時代であり、「船」にまつわる工業・商業が国の基幹産業としての機能を有し様々な事業を生んだ黎明期と言えると思います。明治から大正にかけては鎖国の時代から世界への開国と近代産業の荒波が押し寄せる中で、先進国に伍して行こうと一気に駆け抜けた時代です。この明治20年に当組合のルーツと言うべき東京船具問屋組合が創立されています。ここを創立年とするならば創立133年(令和2年現在)となります。

その後、大正から昭和初期の繁栄期を経て、近代化の歪みのような形で太平洋戦争という暗く激動の時代を迎えます。太平洋戦争中、国内業者は企業が合同するか廃業を余儀なくされ、ついには昭和16年に統制配給会社として統合されるに至ります。

終戦後はこれが解散され、昭和 23 年に東京船具同業組合が再建されます。そこから 10 年後の戦後の混乱がまだ冷めやらぬ昭和 34 年に東京船具商組合設立十周年の記念誌 は編纂されました。当時の組合員の方々の体験・回顧の記述、業界の功労者の人物像等を記載する形で、主に大正初期から戦後 10 年ほどの期間について詳しく記載され 130 ページに及ぶ重厚な組合記念誌となっています。

この中で篠田隆太郎氏は「船具商の今昔」と題して江戸からの歴史が記述されており、 それを年表形式にまとめると下記の様になります

江戸時代 船具商は、日本橋小網町、南茅場町、南新堀、霊岸島銀町に計8軒

(江戸10組問屋便覧による)

明治20年12月 業界の助成機関として東京船具問屋組創立

大正5年9月 東京船具同盟会 串田清三郎会長 17軒

大正 12 年以降 芝浦、鉄砲洲、霊岸島、箱崎、深川、本所小名木川、各方面計 3 8 軒

昭和 13 年 10 月 商業組合法により東京船具商業組合設立 谷村勇理事長 4 7 軒

昭和16年 大東亜戦争勃発 国内全業者は企業合同か廃業かを余儀なくされる。

昭和 16 年 10 月 東京船具配給株式会社 成瀬勝三取締役社長。一方中央において船具商業組

合連合会が日本船用品統制株式会社となり、業界を挙げ、戦時統制に即応。

業者は従来の営業実績に応じて株式の割当を受け、各地区船用品株式会社 並びに統制会社の株式を所有して役員または職員となり統制配給業務に従 事。

昭和20年 終戦後企業整備令の廃止に伴い各地区の配給会社も一様に解散、又は改組

して戦前の自由営業へと還元。

昭和23年4月25日 東京船具協会設立 組合再建 田中真一理事長

昭和27年7月 田中理事長急逝に伴い加藤政次郎理事長継承

昭和31年4月7日 東京船具同業組合に名称改組

昭和35年6月1日 組合再建十周年 東京船具業界史発行

そこから 60 年余りを経て、本 70 年史では、まず江戸から明治にかけての船具商の歴史を掘り起こすことによってそのルーツを訪ねることとしました。そして、10 年史以降の昭和から平成にかけての歴史については、資料が少ないために、長く業界で活躍された重鎮の方々に座談会で語っていただき、さらに各々企業の沿革やプロフィールを記載し会員企業の変遷をたどることで表すこととしました。10 年史の時のような写真を見つけることが出来ず、業界の方々のお声や文章を集めることが出来なかったのは、編集子の力不足によるものでまことに申し訳なく、お詫びする次第であります。

なお、この「組合再建十周年 東京船具業界史」と「組合再建七十周年 東京船具業界史」 は共に下記の Web サイトにてデジタル版を公開することと致しました。

"海に集う者たちの相互連携サイト"「かいこう館」(国土交通省関東運輸局提供・関東小型船舶工業会、関東舶用工業会、東京船具同業組合の合同サイト)

かいこう館: http://www.kaikoukan.jp/

かいこう館>東京船具同業組合>事務局だより http://www.kaikoukan.jp/sengutopics.html

令和の時代は、船はもちろん、電車、自動車、飛行機も大きく変化し、さらに AI に代表されるような IT・電脳が社会と産業の構造を大きく変えて行ことになると予想します。こういう時代に有って中小企業はどう対応し事業を継続し承継していくのか。各企業は日々業務にあたりながら模索し格闘していると思います。その有り方として当組合の各企業は大きく 2 つの方向性に分かれていると思われます。一つは船の領域を守り、その中での専門性や独自性を特化することで継続していく方法。一方は顧客や市場の変化の中で主要な商材・事業モデルを変化していく方法。このどちらも船具商としての精神を受け継ぐ企業の有り方だと考えます。

本七十年史を編纂する中で、その歴史をたどることにより船具商の特徴・精神とは何かと考えると、まず、船(お客様)の様々な個別事情問題解決の要望に応じて、知恵を働かせ工夫をして価値を生み出すことがあると考えます。汎用品にひと手間加えたり、専用に作り出したりして、大量生産にはなりにくいけれども付加価値の高いものを作り出すという特徴です。また、船(お客様)の特殊で千差万別の要望に応じて、何でも扱い無いものは探したり作ったりして出船までに調達し、何とかまとめ上げるということがあると思います。前者の特徴が、様々な機能や特徴を持つロープ、金具、帆布、用具などを生み出しそれぞれの製造のスペシャリストを生みだしていくことになったようです。一方、後者の特徴は、ニッチだけれども専門知識と幅広い情報を駆使し、お客様にとって無くてはならない価値を持つ存在としての商業活動へつながっていくようです。また、この二つの特徴を合わせるようにして、お客様が変わることに対応して、船から離れて主な業種を変えた企業も有ります。

中小の規模ながら、長い歴史をもち続いている企業が多い当組合各社は、こうした船 具商の生き方を学び実践して今の時代を生きているものと思います。また、新たに参加 された企業においてはこうした歴史を参考にしていただき、更に新たな風をもたらして いただき共に発展・継続していければと望みます。

この70年史が組合員企業とそこに働く人々にとっての未来への光明と活力との一助になればと願う次第です。

杉田恵三

泰平の眠りを覚ます上喜撰(*) たった四杯で夜も寝られず

*「上喜撰」…当時の高級茶の銘柄。「上喜撰」と「蒸気船」、黒船をかけている。 『蒸気船が四隻来航しただけで夜も寝られないほど慌てているのは情けないと皮肉ってい る当時の狂歌』

江戸の経済発展は、当時の利根川流域の河川舟運網と大阪、京都(上方)の商品を江戸に運ぶ菱垣廻船・樽廻船の海上輸送網の整備、それを縁の下で支える廻船問屋、船具商の歴史でもあったと考えます。

嘉永6年(1853年)黒船来航は蒸気船という衝撃的な産業技術を知らしめ、日本では薩摩藩が安政2年(1855年)に蒸気船雲行丸を竣工させました。以後の日本の造船技術は目覚ましい発展をとげ、それにともない海運業も大きく成長しました。

昭和35年に編纂された組合再建十周年記念「東京船具業界史」の中には、当時の東京港の様子や船具業界の組合の変遷、当時活躍された中心的立場の先輩諸氏のご苦労が読み取れます。

70周年記念の編纂では、この10周年記念業界史を補完する形で作成されており、合わせてお読み頂ければ幸いです。

編纂に際し、杉田恵三理事長、とくに杉田泰彦様には国会図書館、千葉県関宿城博物館等に直接足を運ばれ、調査研究をしていただき、本編纂に至りました。あらためて御礼申し上げます。

田中 嘉一

組合員の現状 令和2年1月1日現在

■設立 昭和23年(1948年)4月 設立 満71年

■事務所 104-0041 東京都中央区新富 2-12-4 オンズマリーナ 2F 田中産業株式会社

■役員

理事長 杉田恵三 杉田産業株式会社

副理事長 田中嘉一 オンズマリネット/田中産業株式会社

同 山田謙二 三洋商事株式会社 東京支店長

常任理事 堀内榮一 株式会社ホリウチ

同 栗本滋雄 日本救命器具株式会社

同 渡邊貞滿 株式会社渡辺船具店

監事 後藤 勝 綱田工業株式会社

同 中里茂之 垂見船具株式会社

相談役 加藤精三 加藤船用品工業株式会社

同 篠田悛宏 株式会社三共商店

同 毛利輝夫 株式会社タイヨーマリビス

同 石川輝雄 石川商工株式会社

■会員

会 社 名 代表者 氏名 住 所

石川商工 株式会社 代表取締役 保戸田美賢 東京都文京区白山 4-25-6

イワムラトレーディング株式会社 代表取締役社長 原田 鎭夫 品川区東五反田 1-21-9 ウィスタリア東五反田 4F

田中産業 株式会社 代表取締役 田中 嘉一 東京都中央区新富 2-12-4 オンズマリーナ 2F

加藤船用品工業 株式会社 代表取締役社長 加藤 大作 東京都江東区深川 2-1-7

興亜化工 株式会社 代表取締役 溝上 雄一 東京都中央区東日本橋 2-13-9

国際化工 株式会社 代表取締役社長 長谷川文雄 東京都千代田区九段北 1-12-4

コンドーテック株式会社東京支店 東京支店長 浅川 和之 東京都江東区南砂1-9-3

株式会社 三共商店 代表取締役社長 篠田 一志 東京都中央区八丁堀 4-14-8

三福商事 株式会社 代表取締役 菅原 通明 東京都墨田区業平 3-7-12

三洋商事 株式会社東京支店 東京支店長 山田 謙二 東京都中央区新川 1-17-25 東茅場町ビル

三容商工 株式会社	代表取締役	渡邉 芳三	東京都千代田区内神田 2-4-2 石原ビル
芝浦船用品 株式会社	代表取締役	藤田 裕信	東京都港区海岸 3-24-13
島田燈器工業株式会社東京支店	代表取締役	島田 雅司	東京都江東区常盤 2-4-12
杉田産業 株式会社	代表取締役	杉田 恵三	神奈川県横浜市金沢区鳥浜町 15-9
杉田船用品工業 株式会社	代表取締役	杉田美知代	東京都江東区常盤 2-10-9 杉船ビル常盤 1F
株式会社 鈴春商店	代表取締役	吉野 絋一	東京都中央区日本橋箱崎町 6-2
大洋製器工業 株式会社 東京支店	支店長	大西 正敏	東京都江東区木場 2-15-12 MA ビル 7F
太陽船用品 有限会社	代表取締役	川上 二郎	東京都江東区永代 1-13-11
株式会社 タイヨーマリビス	代表取締役	毛利 輝夫	東京都江東区新木場 4-3-8
田中船用品 株式会社	代表取締役	田中 伸一	東京都江東区門前仲町 1-12-5
垂見船具 株式会社	代表取締役社長	平野 誠	東京都港区海岸 3-17-2 垂見ビル
綱田工業 株式会社 東京支店	代表取締役社長	綱田 幹人	東京都江東区東陽 1-3-17
日本救命器具 株式会社	代表取締役	栗本 滋雄	東京都江東区東雲 1-2-1
日本船具 株式会社	代表取締役	南部 大気	東京都港区白金台 1-5-5
有限会社 羽成製帆所	代表取締役	羽成 敬一	東京都江東区北砂 7-2-25
株式会社 富士ロープ	代表取締役	岩田 憲二	東京都江東区東砂 1-3-8
古沢工業 株式会社	代表取締役	古沢 康秀	東京都中央区新川 2-6-4
株式会社 ホリウチ	代表取締役社長	堀内 榮一	東京都江東区東陽 1-7-13
マコト船具 株式会社 東京支店	代表取締役社長	江原 雅弘	東京都江東区千田 10-12
株式会社 マトバ	代表取締役	的場 久雄	東京都江東区永代 1-7-7
株式会社 渡辺船具店	代表取締役社長	渡邊 貞満	東京都港区東麻布 2-20-7
株式会社 ワカスギ 東京営業所	専務取締役	門脇 良介	東京都港区三田 2-8-6

■組合規約

東京都船具同業組合規約

第一章総 則

第 1条 本組合は東京船具同業組合と称す。

第 2 条 本組合は組合員相互の和親協調を図ると共に、船用品の研鎖向上と併せて業界と 組合員企業の健全な発達に資することを目的とする。

第3条本組合事務所は理事長ないし副理事長の企業内に置く。

第二章 組合員

第 4 条 本組合は船用品の製造又は販売を為す者及び船用品関係者で、役員会の承認を経たるものを組合員として組織する。

第5条 組合員は自由に脱退することが出来る。但し、脱退に際して財産上の請求をすることは出来ない。

脱退は、書面により届け出るものとする。

第6条 組合員は役員会の定めた組合費を納める。

第三章 役 員

第7条 本組合に次の役員を置く

理事長 1名

副理事長 2名

常任理事 8名以内

監 事 2名

第8条役員は組合員中より総会で選任する。理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

第9条本組合に相談役を置くことが出来る。

第10条 理事長は本組合を代表して組合運営を総理する。

副理事長は理事長を補佐して業務を常理する。

監事は本組合財産の状況及び業務を監査する。

第11条 理事長は議長となり、副理事長、常任理事及び監事で役員会を組織する。

第12条 相談役は理事会の諮問に応じ、又は会議に出席して意見を述べることが出来る。

第13条 役員の任期は二年とする。但し、重任は差し支えない。

第14条 役員は無報酬 とする。

第四章 会 議

第15条 総会は定時総会及び臨時総会とする。総会は理事長が招集してその議長となる。

尚、組合員総数三分の以上の要求により総会を招集することが出来る。

- 第16条 定時総会は毎年六月に開催する。臨時総会は必要ある毎に之を開く。
- 第17条 総会は本組合の事業の根本方針を決議する。
- 第 18 条 総会の議決は委任状を含め出席者の過半数で決定する。可否同数の時は議長の裁決に従う。
- 第19条 次の事項は総会に諮って決定する。
- 1. 規約の変更
- 2. 収支予算
- 3.其の他必要事項
- 第20条 理事長は次の事項を定時総会に提出して、承認を受けなければならない。
- 1.事業報告書
- 2.財産目録
- 3.貸借対照表
- 4.収支計算書

第五章 会 計

- 第21条 本組合の合計年度は四月 一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。
- 第22条 本組合の経費は組合員の組合費、其の他の収入で支弁する。
- 第23条 本組合解散の場合の残余財産の処分方法は総会で定める。

細 則

- イ.組合員弔慰金 金 壱万円也
- 口. 祝賀金、其の他見舞金の贈呈を必要とする場合は、其の都度役員会に諮り決定する。

組合員の変遷 (平成3年~平成30年) 組合員の変遷(平成3年~平成30年) 昭和56年度 1株式会社網庄石田商店 2 石川商工株式会社 3 稲垣商工株式会社 3 稲垣商工株式会社 3 稲垣商工株式会社 3 稲垣商工株式会社 3 稲垣商工株式会社 3 稲垣商工株式会社 3 株式会社岩田商店 4 株式会社岩田商店 5 株式会社岩田工作所 6 株式会社岩田工作所 6 株式会社岩田工作所 6 株式会社羽成製帆所 6 株式会社羽成製帆所 6 株式会社羽成製帆所 6 株式会社羽成製帆所 6 株式会社羽成製帆所 6 株式会社北別成製帆所 6 株式会社北別の東京船野株式会社 9 日光商事株式会社 9 日光商事株式会社 9 日光商事株式会社 10 株式会社堀内商店 10 株式会社堀内商店 10 株式会社堀内商店 11 東京船里株式会社 12 東京船里株式会社 13 東京商事株式会社 14 東京商事株式会社 15 大田船具株式会社 16 大田船具株式会社 17 大場工業株式会社 18 大場公会社渡辺船具店 19 本田工業株式会社 10 本日船具株式会社 11 本方会社渡辺船具店 12 本田船具株式会社 15 大田船具株式会社 16 和田工業株式会社 17 加藤船用品工業株式会社 18 株式会社渡辺船具店 19 和田工業株式会社 10 東京島東務所 11 中中産業株式会社 12 本門船目品株式会社東京事務所 12 本門船目品株式会社東京事務所 13 東京部日品株式会社 14 大場工業株式会社 15 株式会社東京事務所 16 和田工業株式会社 17 加藤船用品工業株式会社 20 加藤船用品工業株式会社 21 加藤船用品株式会社東京事務所 22 高浦船舶日品株式会社 22 市船舶組株式会社 22 市船舶組株式会社 23 田中電業株式会社 23 田中電業株式会社 23 田中で業株式会社 23 田中で様式会社 23 田中で業株式会社 23 田中で業株式会社

- 31 大洋製器工業株式会社東京支店 31 綱田工業株式会社東京支店 31 株式会社マツイ

- 54 島田灯器工業株式会社東京支店 54 杉田船用品工業株式会社

- 59 駿河産業株式会社
- 60 産業資材新報社
- 61 コーンズアンドカンパニー

昭和60年度

- 55 株式会社ヒカワマリン
 55 杉田産業株式会社

 56 杉田船用品工業株式会社
 56 株式会社鈴春商店

 57 杉田産業株式会社
 57 駿河産業株式会社

 58 株式会社鈴春商店
 58 産業資材新報社

 59 駿河産業株式会社
 59 コーンズアンドカンパニー

- 21 加勝船用品工業株式会社21 神戸船用品株式会社東京事務所21 田中船用品株式会社22 神戸船用品株式会社東京事務所22 大洋塗料船具株式会社23 田中産業株式会社23 田中ロープ株式会社24 田中産業株式会社24 垂見船具株式会社24 桶工業株式会社25 垂見船具株式会社25 田中船用品株式会社25 有限会社第一鋼索26 田中船用品株式会社26 大洋塗料船具株式会社26 大洋塗料船具株式会社26 大洋塗料船具株式会社27 大洋塗料船具株式会社27 田中ロープ株式会社26 大洋塗料船具株式会社27 綱田工業株式会社東京支店28 田中ロープ株式会社28 橘工業株式会社28 中川商店29 橘工業株式会社29 有限会社第一鋼索29 大和産業有限会社30 有限会社第一鋼索30 大洋製器工業株式会社東京支店31 大洋製器工業株式会社東京支店30 株式会社マトバ

平成3年度

- 1 石川商工株式会社
- 2 株式会社綱庄石田商店
- 3 株式会社岩田工作所
- 4 株式会社岩田商店
- 5 株式会社大杉製鋼所
- 6 太田船具株式会社
- 7 大場工業株式会社
- 8 加藤船用品工業株式会社
- 9 木村船舶用品株式会社
- 11 コンドーテック株式会社東京支店
- 12 斎藤船具店
- 13 株式会社三共商店
- 14 三福商事株式会社
- 15 三洋商事株式会社
- 16 三容商工株式会社
- 17 株式会社サンワ
- 18 芝浦船用品株式会社
- 19 島田灯器工業株式会社東京支店
- 20 杉田産業株式会社
- 21 杉田船用品工業株式会社
- 22 株式会社鈴春商店
- 23 有限会社第一鋼索
- 24 大洋製器工業株式会社東京支店
- 25 太陽船用品有限会社
- 26 大洋塗料船具株式会社
- 27 橘工業株式会社
- 28 田中産業株式会社
- 29 田中船用品株式会社
- 30 田中ロープ株式会社
- 31 垂見船具株式会社
- 32 千葉海陸興産株式会社
- 33 綱田工業株式会社東京支店
- 34 東京商事株式会社
- 35 株式会社戸部船具店
- 36 中川商店
- 37 日光商事株式会社
- 38 株式会社羽成製帆所
- 39 株式会社ヒカワマリン
- 40 福進商事株式会社
- 41 有限会社富士ロープ
- 42 古沢工業株式会社
- 43 株式会社ホリウチ
- 44 マコト船具株式会社東京支店
- 45 株式会社マトバ
- 46 大和産業有限会社
- 47 和田工業株式会社
- 48 株式会社渡辺船具店
- 49 産業資材新報社
- 50 コマーシャルユニオン

平成8年度

- 1 石川商工株式会社
- 2 株式会社綱庄石田商店
- 3 株式会社岩田工作所
- 4 株式会社岩田商店
- 5 株式会社大杉製鋼所
- 6 大場工業株式会社
- 7 加藤船用品工業株式会社
- 8 木村船舶用品株式会社
- 9 神戸船用品株式会社東京事務所 9 国際化工株式会社
- 10 神戸船用品株式会社東京事務所 10 コンドーテック株式会社東京支店 10 コンドーテック株式会社東京支店
 - 11 斎藤船具店
 - 12 株式会社三共商店
 - 13 三福商事株式会社
 - 14 三洋商事株式会社
 - 15 三容商工株式会社
 - 16 株式会社サンワ
 - 17 芝浦船用品株式会社
 - 18 島田灯器工業株式会社東京支店 18 杉田産業株式会社
 - 19 杉田産業株式会社
 - 20 杉田船用品工業株式会社
 - 21 株式会社鈴春商店
 - 22 株式会社泰生商会
 - 23 大洋製器工業株式会社東京支店 23 太陽船用品有限会社
 - 24 太陽船用品有限会社
 - 25 株式会社タイヨーマリビス
 - 26 橘工業株式会社
 - 27 田中産業株式会社
 - 28 田中船用品株式会社
 - 29 田中ロープ株式会社
 - 30 垂見船具株式会社
 - 31 千葉海陸興産株式会社 32 綱田工業株式会社東京支店
 - 33 東京商事株式会社
 - 34 株式会社戸部船具店
 - 35 中川商店
 - 36 日光商事株式会社
 - 37 株式会社羽成製帆所 38 有限会社富士ロープ

 - 39 古沢工業株式会社
 - 40 株式会社ホリウチ
 - 41 マコト船具株式会社東京支店
 - 42 株式会社マトバ
 - 43 株式会社八潮陸運
 - 44 株式会社ヤマダ
 - 45 大和産業有限会社
 - 46 和田工業株式会社
 - 47 株式会社渡辺船具店
 - 48 産業資材新報社

平成12年度

- 1 石川商工株式会社
- 2 株式会社綱庄石田商店
- 3 株式会社岩田工作所
- 4 株式会社岩田商店
- 5 大場工業株式会社
- 6 加藤船用品工業株式会社
- 7 木村船舶用品株式会社
- 8 興亜化工株式会社

- 11 斎藤船具店
- 12 株式会社三共商店
- 13 三福商事株式会社
- 14 三洋商事株式会社
- 15 三容商工株式会社
- 16 芝浦船用品株式会社
- 17 島田燈器工業株式会社東京支店
- 19 杉田船用品工業株式会社
- 20 株式会社鈴春商店
- 21 株式会社泰生商会
- 22 大洋製器工業株式会社東京支店
- 24 株式会社タイヨーマリビス
- 25 橘工業株式会社
- 26 田中産業株式会社
- 27 田中船用品株式会社
- 28 田中ロープ株式会社
- 29 垂見船具株式会社 30 綱田工業株式会社東京支店
- 31 東京商事株式会社
- 32 株式会社戸部船具店
- 33 中川商店
- 34 日本救命器具株式会社
- 35 日本信号旗株式会社
- 36 株式会社羽成製帆所
- 37 有限会社富士ロープ
- 38 古沢工業株式会社
- 39 株式会社ホリウチ
- 40 マコト船具株式会社東京支店
- 41 株式会社マトバ
- 42 大和産業有限会社
- 43 和田工業株式会社
- 44 株式会社渡辺船具店 45 産業資材新報社

平成17年度

- 1 石川商工株式会社
- 2 株式会社綱庄石田商店
- 3 株式会社岩田工作所
- 4 株式会社岩田商店
- 5 大場工業株式会社
- 6 加藤船用品工業株式会社
- 7 木村船舶用品株式会社
- 8 興亜化工株式会社
- 9 国際化工株式会社
- 10 コンドーテック株式会社東京支店 10 コンドーテック株式会社東京支店 10 コンドーテック株式会社東京支店
- 11 斎藤船具店
- 12 株式会社三共商店
- 13 三福商事株式会社
- 14 三洋商事株式会社
- 15 三容商工株式会社
- 16 芝浦船用品株式会社
- 17 島田燈器工業株式会社東京支店 17 島田燈器工業株式会社東京支店 17 島田燈器工業株式会社東京支店
- 18 杉田産業株式会社
- 19 杉田船用品工業株式会社
- 20 株式会社鈴春商店
- 21 株式会社泰生商会
- 22 大洋製器工業株式会社東京支店 22 太陽船用品有限会社
- 23 太陽船用品有限会社
- 24 株式会社タイヨーマリビス
- 25 オンズマリネット田中産業株式会社 25 垂見船具株式会社
- 26 田中船用品株式会社
- 27 垂見船具株式会社
- 28 綱田工業株式会社東京支店
- 29 東京商事株式会社
- 30 株式会社戸部船具店
- 31 中川商店
- 32 日本救命器具株式会社
- 33 日本信号旗株式会社
- 34 日本船具株式会社
- 35 株式会社羽成製帆所
- 36 有限会社富士ロープ
- 37 古沢工業株式会社
- 38 株式会社ホリウチ
- 39 マコト船具株式会社東京支店
- 40 株式会社マトバ
- 41 和田工業株式会社
- 42 株式会社渡辺船具店

平成24年度

- 1 石川商工株式会社
- 2 入野商事株式会社
- 3 株式会社岩田商店
- 4 大場工業株式会社
- 5 オンズマリネット田中産業株式会社 5 大場工業株式会社
- 6 加藤船用品工業株式会社
- 7 キムラ海陸通商株式会社
- 8 興亜化工株式会社
- 9 国際化工株式会社
- 11 斎藤商店
- 12 株式会社三共商店
- 13 三福商事株式会社
- 14 三洋商事株式会社
- 15 三容商工株式会社
- 16 芝浦船用品株式会社
- 18 杉田産業株式会社
- 19 杉田船用品工業株式会社
- 20 株式会社鈴春商店
- 21 大洋製器工業株式会社東京支店 21 大洋製器工業株式会社東京支店
- 23 株式会社タイヨーマリビス
- 24 田中船用品株式会社
- 26 綱田工業株式会社東京支店
- 27 日本救命器具株式会社
- 28 日本船具株式会社
- 29 株式会社羽成製帆所
- 30 有限会社富士ロープ
- 31 古沢工業株式会社 32 株式会社ホリウチ
- 33 マコト船具株式会社東京支店
- 34 株式会社マトバ
- 35 株式会社渡辺船具店

平成26年度

- 1 石川商工株式会社
- 2 入野商事株式会社
- 3 株式会社岩田商店
- 4 イワムラトレーディング株式会社
- 6 オンズマリネット田中産業株式会社
- 7 加藤船用品工業株式会社
- 8 興亜化工株式会社
- 9 国際化工株式会社
- 11 斎藤商店
- 12 株式会社三共商店
- 13 三福商事株式会社
- 14 三洋商事株式会社
- 15 三容商工株式会社
- 16 芝浦船用品株式会社
- 18 杉田産業株式会社
- 19 杉田船用品工業株式会社
- 20 株式会社鈴春商店
- 22 太陽船用品有限会社
- 23 株式会社タイヨーマリビス
- 24 田中船用品株式会社
- 25 垂見船具株式会社
- 26 綱田工業株式会社東京支店
- 27 日本救命器具株式会社
- 28 日本船具株式会社
- 29 株式会社羽成製帆所
- 30 有限会社富士ロープ
- 31 古沢工業株式会社
- 32 株式会社ホリウチ
- 33 マコト船具株式会社東京支店
- 34 株式会社マトバ
- 35 株式会社渡辺船具店
- 36 株式会社ワカスギ

東京船具同業組合 役員変遷

役職	昭和58年	昭和60年	平成1年	平成3年	平成8年	平成12年
名誉理事長	加藤政次郎	加藤政次郎	加藤政次郎			
相談役				石田恒男	石田恒男	石田恒男
同				岡田光雄	岡田光雄	岡田光雄
同				望田桂一	望田桂一	望田桂一
理事長	石田恒男	石田恒男	石田恒男	加藤精三	加藤精三	加藤精三
副理事長	岡田光雄	岡田光雄	岡田光雄	田中弘道	篠田俊宏	篠田俊宏
同	望田桂一	望田桂一	望田桂一	篠田俊宏	毛利輝夫	毛利輝夫
同				毛利輝夫		
常任理事	田中弘道	田中弘道	田中弘道	堀内才一	堀内才一	堀内才一
同	斎藤清三	斎藤清三	斎藤清三	平野高春	田中弘道	田中弘道
同	石川惣太郎	石川惣太郎	石川惣太郎	羽成 弘	田中タケ	田中タケ
同	堀内才一	堀内才一	堀内才一	田中タケ	斎藤清一郎	斎藤清一郎
同	平野高春	平野高春	平野高春	斎藤清一郎	大杉高行	大杉高行
同	田中喜一	田中喜一	加藤精三	大杉高行	大場忠敏	大場忠敏
同	加藤精三	加藤精三	羽成 弘			石川輝雄
同	毛利輝夫	羽成 弘	毛利輝夫			
同		毛利輝夫	田中タケ			
監査	杉田俊丸	杉田俊丸	杉田俊丸	杉田俊丸	杉田俊丸	杉田俊丸
同	篠田俊宏	篠田俊宏	篠田俊宏	小久保英夫	小久保英夫	小久保英夫

役職	平成17年	平成24年	平成26年	平成29年	平成30年	令和1年
名誉理事長						
相談役	石田恒男	加藤精三	加藤精三	加藤精三	加藤精三	加藤精三
同		篠田俊宏	篠田俊宏	篠田俊宏	篠田俊宏	篠田俊宏
同			毛利輝夫	毛利輝夫	毛利輝夫	毛利輝夫
同					石川輝雄	石川輝雄
理事長	加藤精三	毛利輝夫	石川輝雄	石川輝雄	杉田恵三	杉田恵三
副理事長	篠田俊宏	野末弥千夫	野末弥千夫	田中嘉一	田中嘉一	田中嘉一
同	毛利輝夫	石川輝雄	田中嘉一			
常任理事	堀内才一	武田博	小堺俊彦	小堺俊彦	瀧下康人	山田謙二
同	田中弘道	堀内榮一	堀内榮一	堀内榮一	堀内榮一	堀内榮一
同	斎藤清一郎	田中嘉一	高橋忠雄	高橋忠雄	栗本滋雄	栗本滋雄
同	大場忠敏	高橋忠雄			渡邊貞滿	渡邊貞滿
同	石川輝雄					
監査	杉田俊丸	後藤勝	後藤勝	後藤勝	後藤勝	後藤勝
同	野末弥千夫	杉田恵三	杉田恵三	杉田恵三	中里茂之	中里茂之

東京船具同業組合 各社の創業・設立年

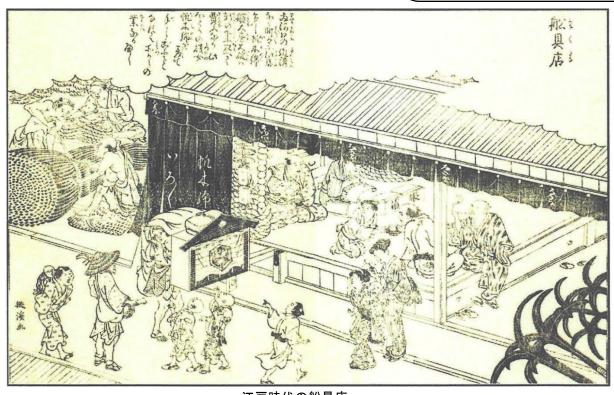
果尔加县问耒租行	谷仙の剧果・故立中	
和暦 西暦	会社名	創業年数(令和2年/2020年)
嘉永5年 1852	田中商店 (田中産業)	168 年
※ 明治28年 1895	北山船具	125 年
明治29年 1896	三共商店	124 年
明治40年 1907	古沢工業	·
※ 明治43年 1910	岡田船具店(大和産業)	110 年
※ 明治45年 1912	橘米吉商店(橘合資会社)	108 年
ж 931µ 10 q — 1012		100 -
大正2年 1913	石川商店(石川商工)	107 年
大正8年 1919	羽成製帆所	101 年
※ 大正12年 1923	飯島幸右工門商店	97 年
※ 大正12年 1923	稲垣英一郎商店	97 年
※ 大正12年 1923	高橋九六商店	97 年
大正12年 1923	杉田商店(杉田船用品)	97 年
※ 大正12年 1923	高浦商店(高浦船用品)	97 年
大正12年 1923	鈴木商店(統制会社/三洋商事)	97 年
※ 大正12年 1923	永田船具	97 年
大正13年 1924	的場商店 (マトバ)	96 年
※ 大正13年 1924	山元商店	96 年
昭和2年 1927	渡辺船具店	93 年
昭和3年 1928	島田燈器工業	92 年
昭和5年 1930	岩田商店	90 年
昭和7年 1932	垂見船具	88 年
※ 所和9年 1934	道源加工所	86 年
※ 昭和11年 1936	稲垣商店(稲垣)	84 年
昭和13年 1938	綱田工業	82 年
昭和13年 1938	日本救命器具	82 年
昭和13年 1938	大洋製器工業	82 年
昭和13年 1938	ワカスギ	82 年
※ 昭和14年 1939	五十鈴商会	81 年
昭和14年 1939	鈴春商店	81 年
昭和14年 1939	大亜工業(加藤船用品)	81 年
昭和17年 1942	興亜化工	78 年
FL/H11 1012	<第二次世界大戦>	10
昭和21年 1946	大洋船具(タイヨーマリビス)	74 年
※ 昭和21年 1946	藤井商店(東京藤井産業)	74 年
昭和22年 1947	三洋商事	73 年
昭和22年 1947	近藤鉄工(コンドーテック)	73 年
昭和24年 1949	マコト船具	71 年
昭和25年 1950	三福商事	70 年
昭和26年 1951	杉田産業	69 年
昭和27年 1952	国際化工	68 年
昭和28年 1953	田中船用品	67 年
昭和30年 1955	堀内商店(ホリウチ)	65 年
昭和31年 1956	国際化工	64 年
昭和36年 1961	三容商工	59 年
昭和37年 1962	芝浦船用品	58 年
昭和42年 1967	日本船具	53 年
昭和60年 1985	イワムラトレーディング	35 年
※ 会員であった会社		00 ₁ -
AA CW / CAL		

北江戸時代以前の江戸湊

室町時代に関東管領として関東の広大な領地を治めたのは上杉家であり、その家老であった太田道灌が 1457 年に江戸城を完成させます。その 10 年後に応仁の乱が起こり京の街は荒れ、そこから多くの人が江戸に逃れ江戸周辺はそれなりに栄えていました。その 30

年後に道灌が暗殺され上杉家は分裂し、北条氏が攻め入り江戸城を落とした後しばらくは関東の地は相模北条と上杉の一進一退の戦いの場と化し、江戸湊は次第に廃れていったようです。そのため 1590 年秀吉の小田原攻めで北条が滅び家康が江戸に入った時には、一説によると江戸城の前は茅葺きの家が百軒ほどの寒村であったと言われています。江戸東京の船具商の草分け大村五左衛門が江戸に出て店を出すのは慶長5年西暦1600年関ケ原の年であったと第20代五左衛門が弟子の加藤政次郎氏に語っています。その頃の江戸湊はまだ開発が始まったばかりでしたが各地から運ばれる様々な物資の主運搬経路は水運であり、船具商たちはその物流機能の重要な一役を担っていました。

昭和52年「霊岸島の碑」より 霊岸島の碍建設委員会座談会にて加藤 政次郎氏「私は大正五年に大村五左エ 門商店へ入店したが、商売は船具屋さ んで、非常に古い老舗でした。先代か ら話を聞きましたが、慶長五年、丁度 関ケ原の戦いの年に、江戸へ出て霊岸 島へ居を構えたそうですが、維新前 は、今のお話の廻漕店のようなことを やっていたらしい。(中略) 水利に恵 まれたためか回漕業が霊岸島はなかな か盛んで、非常に栄えておったと承っ ております。」



江戸時代の船具店

北家康の江戸開発

家康が何故、天下統一後の幕府を聞く 場所として江戸を選んだかは諸説あり、 議論は歴史研究家に任せようと思います が、房総・三浦半島に護られた江戸湾を家 康は渥美・志摩半島に護られた故郷三河 の伊勢湾との相似点を見出しその潜在的 な可能性に魅力を感じたのかもしれませ ん。外洋からのうねりが入らない内湾の 物流拠点を有する大都市は大阪湾と伊勢 湾にて実現しており、家康はそれをよく 知っていたでしょう。関東戦国武将の戦 乱の地と化し開発が遅れた関東平野と江 戸湾に巨大な城下町と湊を造ることに取 り組む事を決心した家康はその後数代の 後継将軍の手によって京大阪を凌ぐ世界 一の大都市を実現させる事に成功します。

三河の盟友伊那氏を関東郡代に任じて河川の改修工事主要海運航路を急がせました。大雨に降られるたびに洪水に見舞われていた江戸臨海部を利根川の東遷事業によりその水を太平洋へと流すことで見事に災害に強い湊へと変身させます。関東中央を東西に走る利根川は災害対策の役割と共に北からの攻めに備える大外堀の意味も持ち合わせ、更に物流の幹線経路にも発展していきます。

そして太平洋に面する銚子からの東西路である利根川と関宿の船番所を経て江戸湾に達する南北なる小名木川を通し江戸日本橋へと結ぶ水運ルートを完成させます。利根川の東遷事業がほぼ完成するのが1654年ですが、霊岸島の大村五左衛門





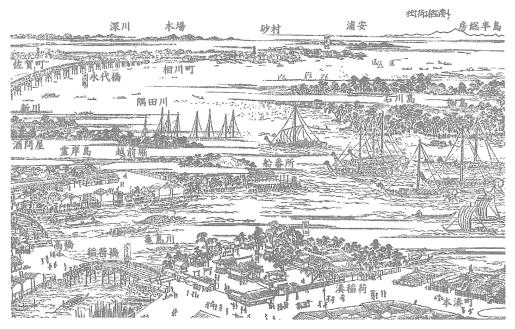
商店のすぐそばに居を構えていた豪商川村瑞賢が 1671 年に東廻り航路を開き、奥州と北 関東の物流経路は発展し行き交う船舟の数も増えています。

ここで運ばれる物資は内川廻しと呼ばれ江戸と外房、北関東、奥州更に蝦夷とを結ぶ幹線物流経路となり、奥州米と高級肥料の干鰯が東から西へ、繊維製品や工業製品が西から東へ更に北へと運ばれていました。

戦乱の世に先陣を争い手柄を競った武将たちは太平の世では土木工事による江戸建設に邁進し将軍家への忠誠を競いました。江戸城を幾重にも堀で囲み、更に神田山などを崩しそこから出る土で芦原の干潟を埋め立てて、伊豆から運んだ石で護岸を固め堀と運河そして自然河川を組み合わせた巧妙な物流経路を建設し、江戸湊の繁栄を加速させます。潮の干満により水位が上下しても容易に物資を陸揚げ出来るよう階段状の護岸を築きます。物資の種類により専用の陸揚げ場所が整備されその周囲に蔵と問屋街が造られます、これが江戸湊の河岸であり名前がついているものだけでも70を超えます。

北江戸城築城と幕府御用商人の成立

太田道灌により築城された江戸城を家康は大規模に修復増築します。攻めて来るであろう仮想敵将に当然江戸城の内部情報を知られては困ります。それでこの築城作業で域内の情報を知りえる人足や職人、商人達は徳川直轄地の三河、遠江、尾張、紀州などの出身者に限定されました。江戸城が完成しこれらの中で江戸に残りたい者には特別に土地と権利が与えられ幕府御用商人として江戸城下町の繁栄に貢献する事となります。彼らはその事が誰にでもわかるよう堂々と三河屋、名張屋、紀伊国屋、伊勢屋など出身地名を屋号に据えその地位を誇示しました。江戸時代の十組問屋便覧に登場する船具問屋の屋号を見てみる



と七軒の屋号が出るとと上軒の国内のはないでは、本手の国内のはないでは、本がのは、本がののは、ないでは、ないでは、ないでは、ないが、まず、かがえます。

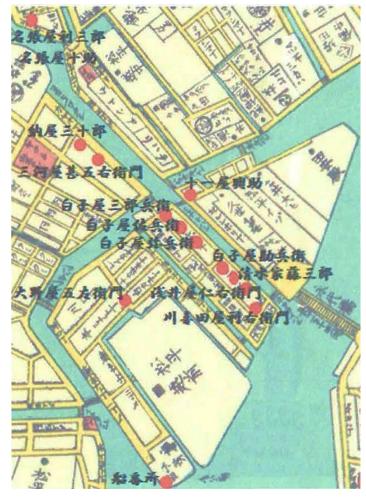
♪船具業界の産業地政学

江戸時代の船具商の配置は三か所に集積していました。船番所のあった霊岸島周辺地、 そして奥州内川廻しルートとなる小名木川とその延長である日本橋川に沿って線状に存 在しました、更に大型船が碇泊していた芝浦周辺には大阪や尾張から来た大型船相手の船

具供給業者が存在しました。

江戸城の外堀の外側に張り巡らされ た運河には陸揚げされる物資の種類に 応じて指定された河岸が存在し、そこ へ入っていく舟は霊岸島地先の船番所 を通る事が義務付けられていました。 この地は江戸時代を通して最も冥加金 が多かった酒問屋や醤油問屋も集中し ていた場所で、行き交う船の数の多さ は浮世絵などからもうかがい知る事が 出来ます。

そもそも中近世の船具の生産、加工、物流の中心地は大阪であり、大阪の船 具商の出店が江戸に沢山あっても不思 議はないのですがその痕跡は希薄で す。酒問屋などは大阪の出店が多かっ たにも拘わらず、江戸の船具商は徳川 直轄地の伊勢湾周辺の出身者が多い理



由は、軍事重要物資である船具は御用商人に独占させて、大阪の船具商が入り込む余地がなかったとも考えられます。明治に入り幕江戸後期の船具問屋の配置図府や大名の御用商人の権利がなくなると大阪から東京に業者が進出してくるようになります。

北世界一の大都市江戸

江戸前期と中期の境となる元禄期には江戸は世界一の巨大都市となります。ヨーロッパのいずれの都市もそれほど大きくなれなかった原因の一つは水にあるようです。上水と下水そして物流経路となる巨大な水路を造るのはヨーロッパの地形では中世の技術をもってしては困難でした。江戸は港湾部からほど近くに坂があり北西部は武蔵野台地が適度な勢いの水流をもたらし、川の水源地となる山岳部では雨が多いので清潔な上水を常に大量に

供給できます。汚水は肥料としてリサイクルされ河川を汚す事は殆どありませんでした。隅田川河口で佃の漁師が白魚を獲り将軍家に献上していた事からも巨大都市にも関わらず河川に汚水が流入してはいなかった事がわかります。中世のヨーロッバの都市は人口が増大すると疫病が蔓延しその人口は抑制され江戸大阪レベルの巨大都市を実現できるような所はありませんでした。江戸のような大都市がこれほど清潔に保たれ大規模な疫病がなかった事は世界でも稀です。巨大で清潔な城下町を実現する為に家康が描いた水の都の完成度の高さは、彼と部下たちの地理学的な洞察力が優れていたからに他ならないと考えられます。いくさや築城作業、鷹狩などを通して得た高い実践的な洞察力は250年の太平の世と世界一の巨大都市建設とに結実されていったのです。

縦横無尽に張り巡らされた河川運河を行き交う大小の船舟の船頭たちはその中心地に 配する幕府御用の船具商人をさぞ頼りにしていたことでしょう。

北江戸時代の船具商のリスト

江戸時代には様々な組合や株仲間がありその文献から船具問屋の存在を知る事が出来ます。菱垣廻船の独占使用権などを有していた江戸十組問屋は江戸の問屋の大手の集まりでありその中に船具問屋は8軒記載されています。その他の文献からのものも合わせると十数件の船具商の名前と住所を知る事が出来ましたが、その場所はとても狭い範囲に集中している事がわかります。

納屋三十郎以外の7軒の屋号はいずれも地名であり、全て徳川家康ゆかりの地でありますが単なる偶然ではないでしょう。東京都中央区佃の住吉神社には佃の漁師が江戸に来る

江戸期江戸湊の主要船具問屋一覧

	店名	住所	現在の住所	初登場文献
1	浅井屋仁右衛門	南新堀二丁目	東京都中央区新川一	江戸十組諸問屋
2	大野屋五左衛門	霊岸嶋銀町三丁目	同新川二	江戸十組諸問屋
3	清水家藤三郎	南新堀二丁目	同新川一	十組株帳
4	川喜田屋利右衛門	南新堀二丁目	同新川一	江戸十組緒問屋
5	白子屋勘兵衛	南新堀二丁目	同新川一	江戸十組諮問島
6	白子屋三郎兵衛	南新堀一丁目	同新川一	江戸十組諸問屋
7	白子屋佐兵衛	南新堀一丁目	同新川一	江戸十組諸問屋
8	白子弥兵衛	南新堀一丁目	同新川一	諸問屋名鑑
9	十一屋興助	箱崎町一丁目	同日本橋箱崎町	諸問屋名前帳
10	名張屋十助	小網町一丁目	同日本橋小網町一	江戸十組諸問屋
11	名張屋利三郎	小網町一丁目	同日本橋小網町一	諸問屋名鑑
12	納屋三十郎	南茅場町	日本橋茅場町一	江戸買物独案内
13	三河屋甚右衛門	南茅場町	日本橋茅場町一	江戸十組諸問屋

由縁が伝えられています。大阪摂津の国佃村の漁師たちに恩のある家康は33人の漁師を 江戸に呼びよせます。恩は大阪の陣の話や本能寺の変の際の話もあり、いずれにせよ家康 は複数回大阪摂津で佃の漁師の舟に乗り白魚などの献上を受けた良好な関係が築かれた 事は間違いなさそうです。家康は天下をとる迄の間に恩を受けたものを江戸に呼びそれな りの権利を与えた事例は他にも多いのです。

さて江戸の船具商たちも同様に家康と過去に深い関係があったものが江戸に呼ばれた と想像する事に無理はありません。特に家康最大の危機と言われる本能寺の変直後の神君 伊賀超えのルートで登場する伊賀の浅井城、白子の湊、大野の湊。それらの地で家康に手 助けをした商人たちが江戸に呼ばれ商いをする権利を与えられたと想像するのは、証拠づ ける文献をまだ見つける事はできないものの歴史のロマンでもありましょう。

よ船具商たちの多角経営

船の動力源が風と人力から 江戸時代の船具商の多角経営の実態 機関にとって代わり、それに伴 い船具も大きく様変わりをし ていきます。明治に入り鉄道輸 送が充実し物流の主役が水運 から陸運に移っていく過程で、 これまた船具商たちも時代の 流れに即応し変身していきま す。代々船具商としての誇りと 伝統を護り続け陸への多角化 を殆どしない店も存在します

	名前	業態
1	浅井屋仁右衛門	船具
2	大野屋五左衛門	船具、苧麻、釘鉄銅物、下り糠
3	清水家藤三郎	船具、苧麻
4	川喜田屋利右衛門	船具、苧麻、畳、蕨縄、釘鉄銅物
5	白子屋勘兵衛	船具、苧麻、畳、線香
6	白子屋三郎兵衛	船具、苧麻、畳、
7	白子屋佐兵衛	船具、苧麻、畳、蕨縄
8	白子弥兵衛	船具、畳、蕨縄
9	十一屋興助	船具、新堀組荒物問屋
10	名張屋十助	船具、苧麻
11	名張屋利三郎	船具
12	納屋三十郎	船具
13	三河屋甚右衛門	船具、苧麻

が、その姿勢は真に敬意に値します。一方、生き残りの為また発展成長の為に、あるいは 顧客の要望に応じる柔軟な動きの船具商気質から、船の道具だけでなく様々な物を扱い多 角経営に乗り出すものも現れます。

江戸時代の船具商たちにもその様子を見る事が出来ます。様々な江戸商業の文献の中か ら船具商を抜き出し、それと同じ名前の商店を他の業種に見出せば江戸船具商の多角経営 の様がわかるのでここにあげてみます。

十組問屋は言わば船を所有したり独占的に使用したりする権利を売る為の組織であり、 この組合に属さない店も多々あるでしょうが、何分二百年も前の事で今日調べられる文献 は限りがあります。上に抜き出したものだけからも何とか多角経営の一端を垣間見る事が 出来ます。白子屋と名張屋など屋号が重複する者は同じ店から分岐した兄弟や暖簾分けや 事業継承者なのかもしれません。

上記 13 軒の内、今で言う所のロープにあたる麻苧(ちょま)を扱い麻苧問屋として組合に所属していたのが8軒、同様に蕨縄も2軒あります。その他畳が4軒ありますが船具商が扱う畳に関しては人を運ぶ比較的大きな船の船内に敷かれる畳を扱っていたのかもしれません。釘鉄銅物は舟釘や錨など船で使う金物は正に船具の王道であります。船で使う金物は錆びが出ない質の高い金属が求められました。木造の和船の製造と修理には船釘は多用され船具商の主要商品でもありました。

麻苧と蕨縄はいわばロープであり典型的な船具の一種です。まず麻苧とは何かを知る必要があります。一般的に縄や布製品に使われる麻は、亜麻、苧麻、ジュート麻、マニラ麻、サイザル麻、ケナフ麻などがあります。現在の家庭用品品質管理法では麻と表記できるものは「苧麻(ちょま:カラムシ、ラミー)」と「亜麻(あま、リネン)のみであると記されていてJIS規格でも同様です。

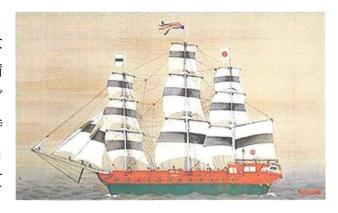
日本古来「麻」として使われてきた繊維の原料は苧麻(ちょま:カラムシ)と亜麻(あま)と大麻です。

カラムシはイラクサ科の多年草で茎の皮に丈夫な繊維が存在し様々な繊維製品の原料として日本各地で栽培されました。歴史は古く日本書紀に持統天皇が民に栽培を奨励した草木の一つとしてカラムシが出てきます。また 753 年東大寺で屛風を入れたカラムシ製の袋の生地が残っていて越後の生産者の名前まで記されています。カラムシは神事に使われる飾り紐などとしても今なお僅かであるものの利用されています。他の麻繊維原料植物と異なり多年草であり収穫し加工する際の短繊維の長さと強度が他を圧倒し、船で用いられる長い綱の用途としては最も用いられたものです。

江戸十組問屋便覧の中の苧麻問屋の数は 36 軒もあり釘鉄銅物問屋にいたっては 44 軒あり船具問屋の8 軒を大きく凌いでいます。ちなみに醤油問屋が 72 軒もあり、水油問屋(主に菜種油)が 64 軒、傘問屋が 46 軒、線香問屋が 37 軒、瀬戸物問屋が 32、足袋問屋が 31 軒となっています。つまり船具問屋の数は多くはなかったのです、でも苗字帯万を許され地位の高かったものもいたのです。

北江戸船具商の伝承「やっかい丸」

隅田川河口の石川島造船所が最初に作った大型船は幕府がペリー来航を受け外国船襲来に備え 1854 年に水戸藩に命じて作らせたオランダ式三本マストの軍艦『旭日丸』ですが、進水時の不手際から「厄介丸」と揶揄された事で有名になりました。『船具業界史昭和 35 年版』79 頁の斉藤清三氏によって書かれた『やっかい丸』



のエピソードはこの船のことです。ここではその文をそのまま引用させて頂きます。

昔の船異屋には中々面白い逸話が残されて居るが、是は私が主人から直接聞いた話しだが「やっかい丸」の廻船出世物語りを御伝えしよう。

頃は旧幕時代で何代将軍かは一寸聞き漏らしたが、徳川家で何千石かの大船を佃島で建造する事になった。其の頃は総て木造船であり、又船の屯数は米の積高によって石数で計算されたのである。飛ぶ鳥を落す勢いの徳川将軍家からの御達しで日本全国から腕ききの船大工が多数集められ、夜を日に次いで工事を急いだ結果、其後一年足らずで新造船は立派に竣工した。既に当時大村五左衛門は霊岸島で船具商を経営して居り一方徳川家の御用商人でもあったので船具一式は同店から上納され茲に装備も完了し造船所から徳川幕府へ引渡されたのである。其の大船を佃島から品川沖へ廻船することになった。ところが隅田川の川底が余りにも浅いので廻航する事が出来ず、諸大名に命じあらゆる手を尽くしたが結局是れと言って良い知恵も出ず、徳川幕府も是にはほとほと手を焼いたのだった。

折角出来た大船を沖へ出す事が出事ず、川の中で立ち往生して居るので遂にはやっかい物扱いされ、江戸市民の間で是を「やっかい丸」と言いはやす様になった。其の話が誰れ言うとなく時の将軍家の耳に入り将軍は徳川家の威信を傷つけるものとして烈火の如く立腹されたのであった。

後御船奉行の進言で船道具屋の大村五左衛門に此の廻船方を御用命になった。幕府の厳命故断わる事も出来ず大村五左衛門は一応引受けはしたものの併し是と言う良い名案も浮かばず気ばかりあせった。然し五左衛門と言う人は性来一を聞いて十を知ると言う様な実に頭の良い人であったので道を歩いてもただでは歩るかない。たまたま新川筋を通ると酒倉の脇に四斗樽の空きが山に積まれてあるのに気づいた。比の空樽を利用して船体を浮き掲げさせる事を考え、早速数百の空樽を買い集めて本船の両側へいだかせ船足を軽くし、遂に其の大船を無事品川沖へ廻船する事に成功した。大村五左衛門は此の功によって徳川将軍より苗字帯刀を許されたのである。其の頃は士農工商と言って商人はどこへ出ても最下位に置かれてみじめなものであった。町人の大村五左衛門が此の「やっかい丸」乗り出しで一躍して侍と同等の資格を得た事は当時江戸市中の評判となり、徳川幕府の信用も倍加し、家業は益々栄え、昭和の御代まで引続き繁昌されたのである。

この「やっかい丸」こと旭日丸と船具業界との関係は大村五左衛門の活躍の話だけにとどまりません。片桐商店(片桐製帆所)の創業者である片桐貞盛氏は幕末にこの旭日丸に船乗りとして乗船していました。明治維新とともにこの船を下り明治初年鉄砲洲船松町(現中央区湊三丁目)に帆布製造の同店を創業することとなります。この店で修行したのは石川商工創業者の石川惣太郎氏や羽成製帆所の羽成福太郎氏そして橘商店の橘米吉氏などで、旭日丸で経験した帆布や船具の製造修復の技術をおしげなく後輩達に伝え船具及び帆布業界に多大な貢献をされました。

よ明治維新と東京の船具業界

長く続いた徳川幕府は倒れ明治政府により新しい時代の建設が始まります。幕府や大名の御用商人として特権を失う商人たちは、明治になっても仕入れや販路はそのまま利用し商いは出来た筈ですが幕府御用商人の特権はなくなり西洋船具を担う新規参入組も現れます。明治初期の船具業界や業者の文献は少なく、明治政府が各府県で各業界組合の設立を奨励する明治 20 年頃からその痕跡を辿る事が出来ます。

江戸時代の同業組合である株仲間は 明治6年新政府の株仲間解体令により 消滅しますが、明治14~18年にかけ 政府は西洋のギルドを手本とし近代的 な同業組合の設立を奨励するようにな ります。これを受け各府県知事から組 合結成を促す布達が発せられて、これ がこの奉願書に書かれた尊府甲第弐号 御布達となります。これに基づき各府 県の各業界は次々と同業組合を設立し 東京の船具業界もいち早く組合設立に 動いたのがこの書面です。

この発起人に書かれた七人の氏名はいずれもこの当時の東京の船具問屋の大手なのですが、その 63 年前の文政 7 年の江戸十組問屋の名簿と共通する氏名は大村(大野屋) 五左衛門だけであるものの、南茅場町の二軒は江戸十組の同町の二軒三河屋と納屋と場所が近く各店の継承者かもしれません。

今日も船具組合に加盟されている田



東京船具問屋組合設立奉願書 明治 20 年



明治 20 年東京船具問屋組合員の配置図

中産業の前身である十一屋田中商店の田中興助氏の名が創業の地箱崎の地名と共にあるのは嬉しい限りです。

明治に入り霊岸島地先の船番所はなくなり必ずしもここを通過せずとも船は行き来できるようにはなりましたが、依然として東京の物流の中心地である事には変わりはなく、船具業界も霊岸島と日本橋川筋に集中していました。明治 22 年に霊岸島の船番所のあった所に渋沢栄一の音頭で数社の汽船会社が合併して東京湾汽船が生まれ、桟橋が建設されその北には東京船汽船造船所が明治 18 年開業します。これをもって霊岸島は船番所の町から東京湾汽船の船着き場の町と姿を変えます。対岸の石川島造船所も水戸藩のものから明治 9 年民間に払い下げられ 22 年法人組織となり 26 年には株式会社となり東京の船具業界の中心地として栄えていきます。

よ東京湾汽船と東京製綱と石川島造船所と船具業界

江戸時代は川や海に面した場所の使用に関してはかなり厳密な規制があり、大きな敷地を有する巨大な工場や倉庫の建設は民間業者には不可能でした。それが明治に入り次々に大きな工場や倉庫や港が建設されて正に文明が開化していく中で船具業界も発展していきます。渋沢栄一が主導的な役割を果たして設立したこれら三社は東京の船具業界にとってはとても大きな存在でした。東京製鋼の工場は深川と月島にあり日本初のマニラロープとワイヤロープの大規模工場となります。船具商はここから仕入れたロープを加工し顧客に納めたのです。石川島造船所と東京湾汽船は正に船具の納品先でしたがいずれも隅田川河口に位置し、造船業と海運業の発展に伴いこの地域の船具業者はその数を増し活況を呈していきます。

◆東京湾汽船

明治 18 年東京湾汽船株式会社造船所が霊岸島亀島川河岸京橋区新船松町将監河岸に開設される。 明治 21 年 実業界の大物渋沢栄一の構想により東京湾汽船が設立される。

「東京平野汽船組合」「第二房州汽船」「三浦汽船」「内国通運」の4社21隻の船舶で営業を開始する。

明治 40 年 東京府の命令航路として伊豆大島および伊豆諸島にも航路を開設する。

大正 15 年 川端康成が伊豆の踊子を発表 (大正 7 年頃の東京湾汽船乗船の経験を記す)。

昭和11年 勝関橋建設に伴い霊岸島から埋立造成直後の芝浦8号地に移転する。

昭和15年 勝関橋完成 同年大島岡田港完成。

昭和17年 東海汽船に社名変更。

昭和23年 月島こと現在の勝どき5丁目に本社と乗り場を移転する。

昭和28年 月島から現在の竹芝桟橋に移転。

◆東京製鋼

明治20年 麻布に本社を設立するとともに深川にマニラロープの製綱工場を設立。

明治21年 大村五左衛門、宇田川清兵衛、鈴木弥兵衛の各商店を特約店に指名する。

明治26年 東京製鋼株式会社に社名変更。

明治29年深川工場にて日本初のワイヤロープ製造工場を設立。

明治26年 株式会社東京製綱に改組。

明治29年 東京証券取引所に上場。

昭和4年 大村五左衛門商店の再建に加わり株主として株式会社大村商店を設立し同店を代理店とする。

◆石川島造船所

嘉永6年(1853) 水戸藩に命じて石川島に造船所を建設「旭日丸」などを建造。

明治9年 築地で印刷機械を製造販売していた平野富二に払い下げられ石川島平野造船所として創業。

明治10年 蒸気船「通運丸」建造。

明治22年有限責任石川島造船所創立。

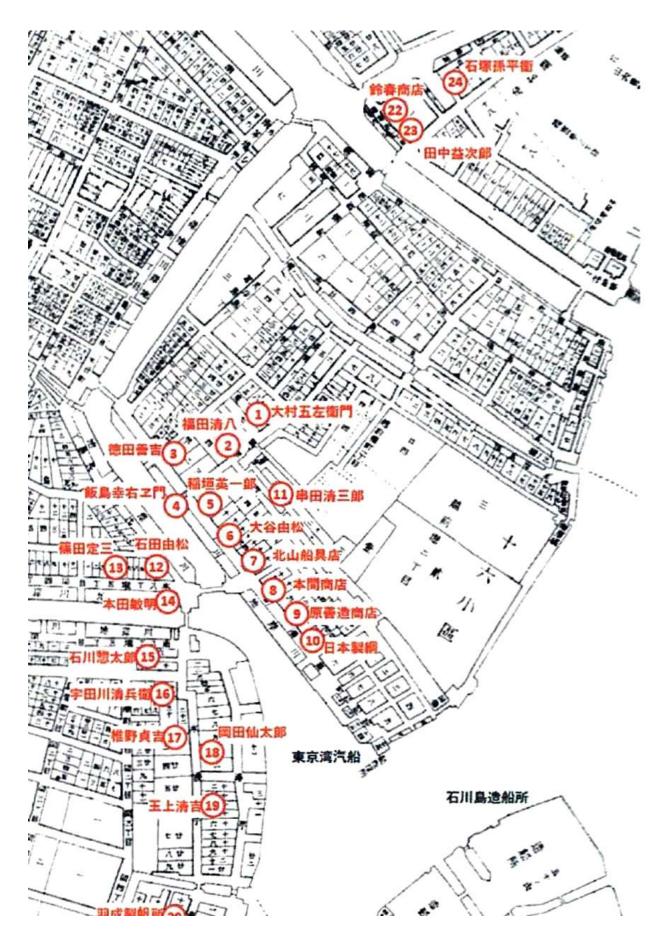
明治26年 東京石川島造船所株式会社に改組。

昭和35年播磨造船所と合併して石川島播磨重工業株式会社に。

よ関東大震災と船具業界

大正 11 年 9 月関東地方を大地震が襲い死者行方不明者は 10 万人を超え、東京の船具業界はこの大震災によって多大な被害を受けました。店そのものが在庫品と共に失われ、存亡の危機に瀕する業者が続出しますが、各社復興に尽力し廃業する業者は殆どいませんでした。大村五左衛門商店では跡とりの金一郎氏が聖路加病院の煉瓦塀が崩れその下敷きとなり亡くなる悲劇が起きています。救援物資の集積場所となった大阪では海運業界と船異業界は活況を呈しますが、東京や横浜では混乱の中、ベテラン店員が独立する契機となり業界の事業者の数が増える事となりました。別頁の「江戸東京の主たる船具商の歴史系統図」を見てみると関東大震災の直後の大正 1 2 年創業の店が 5 軒あります。

うち4軒は大村五左衛門商店から独立した飯島幸右ヱ門氏、稲垣英一郎氏、高橋九六士、 杉田八郎氏でそれぞれ自分の名前を冠した店を創業する事となりました。一方成瀬勝蔵氏 は鈴木痛兵衛商店から独立するものの鈴木商店の名を継承していき、その後戦中は統制会 社の設立に尽力し要職を歴任した後、三洋商事を設立します。又、日本の首都の壊滅に各 国が派遣した震災の救援物資を積んだ蒸気機関を用いた汽船が多数入ってくるようにな り、船具業界もこれらの船の需要を満たすべく洋式船具の扱いを増やしていきます。



関東大震災前の東京の船具商の所在地 東京船具業界史昭和 35 年度版より

上江戸東京船具業界コラム

本錦帆布と干鰯ルート

主要船具の一つである帆布に木綿布を日本で最初に用いたのは戦乱の世の織田信長であると言われています。更に江戸時代後期播州高砂の工楽松右衛門と言う船頭が近代的な太木綿糸を使った平織りの厚地広幅の丈夫な帆布を織上げる織機を発明しすぐに全国に普及して松右衛門帆と呼ばれ船の速度に革命を起こします。木綿以前の帆布は麻や稲わらのむしろなどが



用いられ、荒い布の隙間を風が通り抜けて帆走性能も操作性も悪かったのです。

日本に綿花栽培法が入ってくるのが室町時代で戦国時代から江戸初期にかけて綿花栽培に適した温暖な太平洋岸から瀬戸内海に至る東海道から山陽道にかけての耕作地は米から木綿栽培へと転作が進みます。江戸時代に入りやっと庶民の衣服が麻から木綿へと変わりますが、戦国時代には純白の木綿布は容易に鮮やかな色へと染められて速くからでも敵味方の識別がしやすいので陣旗、陣幕、軍服などのいくさの装備品としても用いられていました。

木綿栽培に欠かせないのが金肥と呼ばれる高級肥料で鰯を干した干鰯(ほしか)はその代表で、これを用いると綿花収量が倍になる程の効果があり、その流通量も多く干鰯専業の問屋も少なくありませんでした。西国では鰯を獲るとその資源量は減っていきますが、黒潮と親潮がぶつかる銚子から奥州東北沖は獲っても獲っても鰯が湧いてくる好漁場であり、高い技術を持つ紀州の漁師たちはこぞって外房の各湊へ移り住んで漁に励みました。鯨やイルカに追われて湊に鰯の群れが入ると村人総出で地引網を出して獲れた鰯をこれまた総出で浜に並べて天日で干します。 これを俵に詰めて干鰯俵として流通ルートに乗せました。

江戸では関西方面から来る高級品は下りものとして重宝されました。関西からは菱垣廻船、尾張からは尾州廻船と呼ばれる千石船が木綿製品や絹製品、油や薬などを江戸へ運びます。帰りの船は空では安定が悪く干鰯や奥州米などを乗せて帰りの航海をします。 銚子や奥州から直接関西方面に船で運ぶ事は少なく、内川回しと言って利根川、江戸川、小名木川を通り深川、箱崎、小網町などの干鰯場に一戸川の分岐点にある関宿には



関所があり利根川の北側と江戸を行き来する舟はここで必ず積荷や乗員のあらためが行われ、禁制品の武器や女性の出入りが厳重に監視されていました。この関宿の干鰯問屋の最大手に江戸初期に近江からやってきた喜多村と言う豪商がいて関宿藩の財政を凌ぐほどの財力を持っていたといいます。銚子や飯岡で獲れた干鰯は一旦関宿の喜多村の蔵へ運びそこから深川へと運ばれ更に伝馬船という艀で芝浦沖に停泊する菱垣廻船や尾州廻船に瀬取りで乗せ変えて西国へと運ばれました。

北江戸東京の主たる船具商の歴史系統図

江戸初期創業

大村五左衛門商店 霊岸島(中央区新川)

-北山喜一郎 (明治28北山船具店)

--斎藤清三(昭和7斎藤船具店⇒斎藤商店★)

-岡田仙太郎(明治43岡田船具店=大和産業)

飯島幸右ヱ門(大正12飯島幸右ヱ門商店)

稲垣英一郎(大正12稲垣英一郎商店)

- 髙橋九六 (大正12 髙橋九六商店)

- 杉田八郎(大正12杉田商店⇒杉田船用品★)

--杉田俊丸(昭和26杉田産業★)

- 水野貞吉

- 角谷佐蔵(昭和14五十鈴商会)

- 加藤政次郎(昭和14大亜工業⇒加藤船用品★)

- 山中健之助-

-(昭和 21 大洋船具⇒タイヨーマリビス★)

- 赤池喜子蔵-

- 大内泰介(三洋商事大阪支店★)

- 大高政兵衛

-岡村道太郎

明治初年度

片桐製帆所 船松町(中央区湊) ⇒片桐★(登山用品)

- 橘米吉(明治 45 橘米吉商店⇒橘合資会社)

┗稲垣勝蔵(昭和11稲垣商店→稲垣工業→稲垣)

石川惣太郎 (大正2石川商店⇒石川商工★)

- 的場丹蔵(大正13的場商店⇒㈱マトバ★)

岩田英雄(昭和5岩田商店★)

道源栄次(昭和9道源加工所)

石塚要助商店 箱崎

-鈴木春蔵(明治43鈴春商店★)

江戸創業

喜多村商店 関宿 (千葉県野田市)

田中与助(嘉永5田中商店→田中産業★)

明治初年創業

綱庄石田商店 日比谷町(中央区八丁堀)

堀内才一(昭和30堀内商店⇒ホリウチ★)

明治7年創業

鈴木端兵衛商店 松屋町(中央区八丁堀)

-高浦高太郎(大正12高浦商店⇒高浦船用品★)

一成瀬勝蔵(大正12鈴木商店/統制会社

/昭和22三洋商事★)

田中正一(昭和23田中船用品)

-原欣一(横浜)

- 矢野義一(横浜)

-山本桂(横浜)

-渡辺階助(画館)

明治創業

帆吉 斎藤吉三郎

━永田繁一(大正12永田船具)

明治創業

宇田川清兵衛商店 鉄砲洲 (中央区湊)

·飯田元吉(大正13山元商店)

-藤井益雄(昭和21藤井商店⇒東京藤井産業

参考文献

東京船具業界史(1960)、大阪の船具商と人(1967) この道ひとすじに(1968)、「堀内オー」一代記(2010) 田中産業 Hp (2018)、片桐(株)HP (2018) 各種紳士録など

敬省略 平成30年9月杉田泰彦作

東京船具組合 70 周年記念座談会

平成 30 年 10 月 18 日

出席者

相談役 加藤 精三(加藤船用品工業株式会社)

同 篠田 悛宏(株式会社三共商店)

同 毛利 輝夫 (株式会社タイヨーマリビス)

副理事長 田中 嘉一 (オンズマリネット/田中産業株式 会社)

常任理事 堀内 榮一(株式会社ホリウチ)

監事 後藤 勝 (綱田工業株式会社)

司会:杉田恵三、杉田泰彦(杉田会産業株式会社)

司会:本日はお忙しい中、東京船具同業組合 70 周年記念 座談会にお集まりいただき誠にあり がとうございます。

昭和 35 年の組合再建満十周年記念東京船具同業業界史から 60 年を経過して、今年 70 周年を迎えましたが、この間の記録があまり有りません。この期間のことを組合の重鎮の方々にお集まりいただき、お話を伺いたいと思います。

平成の時代

司会:加藤さんが理事長をなさっていたのは何 時頃からだったのですか。

加藤:私が(平成3年位に)綱商石田の石田さんから引き継いで長くやって、その後、毛利さん、石川さん、そして杉田さんです。

司会: 堀内さんは、理事長はなさっていないのですか?

堀内:父は船具組合の方の理事長はしていない ね。

加藤:でも役員はずーっとやられていたよ。

後藤:ここに平成8年の写真が有りますけれど、 加藤さんが会長さんで、堀内さんの会長さんが 出てこられないときは代わりに、社長さんが来 ていましたね。これは熱海の大野屋の写真です が、この年が大野屋でやった最後の年ですね。そ れまでは毎年、どこかで泊まりでやっていましたからね。

毛利:22年前で、僕らも若いね。

昭和の時代から

田中:統制会社が終わって昭和23年から27年まで、初代理事長が祖父の田中真一で、そこがスタート。その後加藤さんのお父さんの加藤政次郎さんが理事長を長く勤めていらしたんですね。司会:加藤精三さんが理事長をなさっていらした頃は会員数はどのくらいいたのでしょう?毛利:加藤さんは20年間やってきたんだよね。(綱商石田の)石田さんから急に変わってくれって言われて50歳くらいで引き受けて。

司会:20年間ずいぶん苦労なさられたでしょう。 加藤:やることとは新年会、総会、秋の慰安旅行 だね。

堀内:船具組合は野球もやっていて野球大会は 盛んだったよね。

加藤: それは親父の時代(昭和 30 年~50 年代 くらい)でね。

後藤:芝浦連合とかいろいろ会社が組んでチームを作っていましたよ。

毛利:堀内さんの会長さんがいつも野球に来ていて熱心だったねぇ。

堀内:私もチームに入ってやっていましたよ。 加藤:ここに名簿を持ってきたんですけどね。加藤:昭和58年には60社以上有ったんですよ。 司会:昭和58年の名簿を見ると

名誉理事長:加藤正次郎(東京船用品株式会社) 理事長 :石田恒男(株式会社綱商石田商店) 副理事長:岡田光雄(大和産業株式会社)

同 :望田桂一 (株式会社鈴春商店)

常任理事:斎藤清三(斎藤船具店)

同 : 石川惣太郎(石川商工株式会社) 同 : 堀内才一(株式会社堀内商店) 同 : 石田文次郎(大洋船具株式会社) 同 : 田中弘道(田中産業株式会社) 同 : 平野高春(垂見船具株式会社) 同:田中喜一(田中ロープ株式会社)

監事: 杉田俊丸(杉田産業株式会社)

と言うそうそうたる方々が並んでいらっしゃいますね。

会員数も多いですね。(61社)

堀内: これより前の昭和 40 年代はもっと有ったんでしょうね。

田中: 10 年史の時は何社ぐらいだったのでしょう?

司会: 42 社ですね。

田中: そこから相当増やされたんですね。

後藤: 船具商だけでなく、船具のメーカーさんに も参加してもらう、ということで、私達が入会を お願いに行ったりしましたからね。

司会:昭和58年で60社ぐらいですね。

加藤: この時の組合の住所の八丁堀 4-14-3 で これは綱商石田さんですね。

加藤:船具組合っていうのは商売上のことはなくて、親睦ということで集まっているんですね。 例えば熱海に行って賭け事などやってね。当時、他に楽しみが無かったようなことで。

司会:ということは昔の通産省が旗を振った組合を作り共同購買をするとか、保険とかそういう経済活動は全くなかったんですね。

加藤:全くなくて、親睦だけ。だから、野球大会 とかね。

後藤: 釣り大会もありましたね。 奥多摩のニジマス釣りね。 あの当時の写真残っていますよ。 朝早く起きて行ってね。

司会:皆さん仲よかったのですね。

加藤: そういうこと。夏に海水浴に行くというので、バスで行ったんですね。

司会: 当時、ファックスやメールもなかったので、連絡は大変だったのではないですか?

加藤: 僕の時代はもうあまりやらなくて、その前の時代で、大変だったと思いますよ。

司会:綱田さんも野球チームありましたか?

堀内:綱田さんのところは強かったよ。うちは一 回だけ優勝したかな。優勝して新川のすし屋の 2階でどんちゃん騒ぎしたんだけど、みんな、蛸で当たってね。たまたま、私は電話がかかってきて、長電話していたんですが、終わって戻ったら、もう蛸が無くて食べ損ねてね。私だけ食べずに逃れられたんですよ(爆笑)。みんな七転八倒してね。

司会:新川って、香取鮨さんですか?

堀内: そんな良いところじゃなくて、どっかね。 その後、廃業しましたよ。

司会:加藤さんの理事長さん頃の苦労話は有りますか。

加藤: 僕のやっていたころの最後の方ですが、例 年、新年会は熱海の大観荘でやっていたのです が、だんだん参加者が減ってきてしまってね。秋 の旅行も言っていたのですが、同様に減ってき て、それで、都内でやろうということにしまし た。それまでは年2回は必ずどこかへ行ってい ました。以前は海外へ行ったことも有ったんで すよ。台湾、香港、バンコク、ハワイにも行きま した。石田さんの理事長のころですね。やはり景 気の良し悪しというのは有るんですね。

後藤: 当時は集まれっていうと、家族も参加して そういう懇親の場が多かったですね。

加藤:海外はロープ業界の方と合同で頭数を揃えたりしていたんですね。

ロープ加工組合とかで、堀内さんは必ず参加されていました。当時、若者は海外なんてそうは経験できないから、会社が行かしてくれるので。

毛利:何十年っていのもあっという間だねぇ。

篠田さんが副理事長になったのは 60 歳の時で。 篠田:私は昭和4年生まれです(89歳)いつの

間にか歳取ったね。

加藤:篠田さんが副理事長としてすべて音頭を 取ってくれて、理事会は八丁堀の公民館で行っ ていましたね。

篠田: 苦労は全然していないです。みんな他の人がやってくれました。

太陽船用品の川上さんは、以前は篠田さん(三共商店)のところで働いていたんですね。

堀内:私がまだ小さいころ、その川上さんがまだ 三共さんにいたころにお隣の人と取っ組み合い のけんかをしていたんですよ。そういうことは 覚えているね。

司会:後藤さんはいつごろから加わるようになったのですか?

後藤:私は昭和41年に大阪から東京の方へ来たのですが、その前から、三共商店さんや岩田さんとお取引があり、知っておりました。当社の初代から、3年で帰してやるといわれたんですが、、、、それからずっとです。篠田さんに関西と関東の違いなどご指導いただきました。加藤さんにも教えていただきました。

司会:関西と関東の違いとはどのようなことでしたか?

後藤:まぁ、けんかはしないようにしろとかね。 仲良くやろうと。

司会:毛利さんが理事長をなさったのは何時ですか。

毛利:僕が理事長をやったのは加藤さんの後の 短い期間だけだよ。2期か3期。1期2年で。加藤さんが具合が悪くなったので急遽なった。そ の時に、ある船用品の社長に、会合に出てもらえないかを電話したら、そしたら、「加藤さんというのはお父さんが立派な人で、だから加藤さんが理事長をやっていたのに、なんであんたが理事長になったんだ、なんて言われてね。冗談じゃないと言おうと思ったけど、大人気ないからやめたけどね。それくらい加藤さんのお父さんというのは立派な方だったんだよ。だから、加藤さんが理事長になるのは当たり前でね。

加藤: いや、僕は石田さんに強引に押し付けられたんですよ。まだ、何も言えないような年ごろで50歳前後で。あれにはまいったな。だから、篠田さんなんかが、俺がお金の方なんかはしっかり見てやるから、って言ってくれたんです。毛利さんなんかもバックアップしてくれたので、何とか出来てきたんです。

三共の篠田さんはお金しっかりしているって、

みんな知っていてね。

激動の歴史

司会:田中さんのところは今何代目なのですか?

田中:6代目です。いろいろ変遷があって、関東 大震災の時、うちの祖父が養子で来ていたので すが、箱崎町の店が全部焼け出されて、大八車に 積んで逃げ出し、大福帳ひとつでゼロから立ち 上げたと聞いています。その時は大変に人数が 少なくなって、戦前で10数人に盛り返してきた のかな?それで、戦争があって、父の時代には船 用品といより塗料専業の会社みたいになって 4 ~5 名の時もあったようです。業界の荒波にも 飲み込まれそうになってぎりぎり助かったとい うかいきのびたのかなというのがありますね。 昔の歴史をみると皆さん、商売の理念というも のをもって健全に生き延びられているので、こ の船具の歴史というのは業界の中でもなかなか ない業界の一つなのではないかと思います。ま してや今の船舶の技術の歴史で木造船から蒸気 船から今のような船になって、技術が開発され 船舶用の機械に行かれた会社もあるでしょうし、 産業革命からどんどん変革している流れの中で 見てみると業界の流れというのが分かると思い ます。

毛利:田中さんのところは 6代 ずっと男の子 が続いたんですか?

田中: いえ。養子も入っていて、伊勢の血も入っています。

堀内:先週、東京製綱の会合があって、京都の大宮ロープいうのがあって、これが210何年つづいて8代目だといっていましたね。やはり、男がずっと続いていたわけではなくて養子縁組していましたね。

田中:関西の方は女系の考えがあって、女の子が 生まれて優秀な人を取るんだっていう文化があ るようですけどね。

堀内:6代目とか8代目とかすごいよね。本当

によく続いていると思いますよ。戦争やいろい ろあったんだから。

戦前戦後

田中: 統制会社の時代のことが分かると、その時代の大変さが分かると思うのですが。 そこから立ち上げなおして、今こうやって皆さんが健全にやっていらっしゃることが、おそらく三洋商事さんの成瀬さんだったらご存知だったりしたのだと思います。

毛利:大八車やリアカーにペンキを積んだって 聞いていて、僕は実際に自分でやったことは無 いけれど、そういう話は聞いたことも有ります ね。

田中:堀内さんの会長さんから、うちの祖父がそ うやって駆けずり回っていたのを見たよ、って 言われました。

毛利:堀内の会長はまさにそういうのをやっていたんでしょうか。ぼくより 20 歳くらい上だったから。

後藤:昭和38年ごろ時はまだ、スーパーカブに リアカーを括り付けてそれで配達していました ね。私が入ったときは。

毛利:堀内の会長さんは頑張ったのでしょうね。 堀内:聞いた話ですが、品川を出ると八ツ山橋っ てあるでしょ?そこはだらだらっと長い坂にな るんだね。そこを大八車にワイヤーロープを乗 せて上るのがしんどかったって言っていました よ。やっと配達を終わって戻ってくると、遅いっ て言って殴られたって。

田中:東京は無いようでいて結構、坂がありますからね。

堀内:江東区は坂が無いけど小さな橋がいくつもあって、自転車でも結構大変だよね。電動自転車にすっと抜かれて、あれ、腹立つねぇ(笑)昔は永代のところで大八車をひっくり返してしまって大川に荷物を落っことしてしまったなんてこともあったって言っていました。

加藤:うちの親父が言っていたのは関東大震災

で、大村五左衛門の本家の夫婦が本願寺にお参りに行っていて震災があったので、「お前、迎えに行け!」というので大八車で迎えに行ったって話がありました。

堀内:本願寺も昔はもっと気が生い茂っていて、 いまは建物だけで面影が無いね。

後藤: そういえば東京に来た時に、本願寺に行って何でこんなに樹木があるんかなぁ、と。

毛利:堀内の会長というのは東京に出てきたと きにいくつだったの?

堀内:14歳。紀州和歌山から出てきて、綱商石田さんのところに丁稚奉公に入ったの。

正月と盆しか休みが無かったというくらい働いていたようす。

二代目の苦労・後継者の育成

毛利:堀内さんも一代でああいう会社を作った んだからすごいね。

篠田さんは(お父さんが会社をやっていて)、早 稲田大学をでてすんなり後を継いだんでしょ? 堀内さんとは全然違うんだよね。

司会:篠田さんは学生のころからお父さんの会社を継ぐ、というように思っていらっしゃったのですか?

篠田: うーん。まぁ、食うことが出来ないからね。 (笑)

毛利: だから、堀内の会長とは全然育ち方が違うんだね。エリートだよ。でも、それなりに苦労されていると思ますよ。

司会:そういう意味では堀内さんの今の社長さんはお父さんの築いた会社が既にあってエリートということですね。

堀内:そういわれればそうだけれど、小さいころ、朝早くたたき起こされて、深川の同業のロープの加工屋さんなんかをスクーターのケツに乗せられてグルグル回っていましたね。朝、7時ごろだと思うけど、皆さん迷惑がらずに「また、堀内の親父が息子を連れてやってきたか」と。だから、こんなガキの頃からそういう風に育てられ

ましたよ。今でも思い出すのは小学校の 4 年のころに、宇佐美とか網代のほうに漁業組合にロープを入れていて、そこに「お前、集金に行ってこい」って言われてね。湘南電車に乗って一人で行ったことがあるんですよ。で、組合に行って「組合長さん、いらっしゃいますか」っていうと「おらん。自宅にいる」と。で、自宅を教えてもらって行くと組合長が「魚取れないから金ない」と言われて、「そういう風に親父に言え」「魚一匹ぐらいなら持って帰れ」って。

それで親父に電話したら「その魚、持って帰ってこい」っていうことでね。ワラサを新聞紙を濡らして包んで(発砲スチロールなんてないから)縄でぶら下げて湘南電車に乗ったんだよね。ところが冬だったから電車の暖房が効いていて温かくて、なんか臭ってきて臭くてねえ。(笑) それが恥ずかしくて嫌で今でも覚えていますよ。そういう風に育て上げられてきちゃったから。自転車で板橋まで荷物を運んでこいとか言われて。。。だからこんなガキの頃から手伝わされて。だから勉強しなかったんだな。(笑)

ですから、学生時代は運転免許取って春休みも 夏休みもずーっと運送のアルバイトですよ。

出発して最初が蒲田で、鶴見に行って、横浜の河 合さんなどに行って、横須賀の田浦のサルベー ジ会社に行き、平塚に抜けて工具屋さんに行き、 最後は小田原の古田商店っていう金物屋さんと 井上善太郎商店?というお店に行くんですね。 そうするともう夜遅いから、とんかつ食べて風 呂入って帰れ、と言ってくれてね。高速道路無かったですからね。そんなのばっかりやっていま したよ。そいうことで言うと結構お小遣い持っ ていましたよ。

毛利: それなりに苦労はしたんですね(笑)

田中:堀内さんの会長とうちの祖父が被るのですが、うちの父は祖父から殴られながら集金とかしていたようです。昔は取れ高払い催促なしの業界だから、店の前に一日座って、取り立てに行きそれでも払ってくれないところもあって、

そうした嫌な思いをしながらやってきということを聞いています。そうやって叩き上げるという子供の育て方をしたんでしょうね。私自身はそういうことが無くて、父が叩かれたのでもう殴りたくないということで、ありませんでした。司会:田中さんはお父さんの会社を直ぐに継いだのですか?

田中: 私は10年関西の会社に勤めていました。 最初は継ぐとは思っていませんでしたが、ある 時期にチャンスがあるのであればやるべきであ ろうと思ったのですが、すぐにやるのではなく スキルを高めるために関西の会社で勉強しまし た。父の思い出としては、小学校の時に休みの時 に出張に連れられていわゆるドサマワリという のはしました。本当に親しいところばかりだっ たのですが、結構、業界・うちがやっている仕事 については見させてもらいました。泥臭い仕事、 つまり地方を回って、東北だと気仙沼から宮城 の海沿いをずーっとドサマワリしていましたか ら。そういう経験が無かったらこの業界に入ろ うという気持ちになったかどうか。小さい時の 記憶があるので今こうやって出来るのかなと思 います。今の息子の代になるとどうなるのかな と思う気がしますね。

ただ、学生時代は家業を手伝うということはしませんでした。

司会: うち(杉田産業)は一切そういうことはなくて、後継者の育成問題としてはどちらが良いのでしょうね?三共商店はいかがですか。

篠田:私はそういう苦労は無いです。女ばかりの中の男一人だったから、あまり男らしく育てられなかったんです。

後藤:でも、篠田さんのお父さんは厳しい人だったですよ。背が高くて細くて眼鏡かけていて。

加藤:穏やかで本当に紳士な人でしたね。

後藤:三共商店さんは取り決めごとに厳しく、納 期が遅れそうになったら「なぜ早く言わないん だ」といろいろ教えていただきました。

司会:毛利さんは息子さんに若いころから手伝

わせたりしましたか?

毛利:私もこの業界を継いでくれるように願っていますが。いまは塗料業界が大変なことになっていて。昔は500 社以上あったのが半分くらいになってしまって、大変なんですね。それで、一生懸命やってくれています。

船具商とは

司会:杉田産業は船具から他の仕事が多く成ってしまったのですが、綱田さんは船具の領域を守っているのですか?

後藤:船舶関係は法律が変わります。毛利さんのところのような塗料にしても貯蔵庫を設けなければならないなどの法規改正があって、そういうことに対応して続けられるかどうかということです。救命筏にしても国土交通省の認定証を受けなければなりません。土地や設備も必要です。東京だと土地が高くてできないので大阪と尾道で対応するようにしています。そういう設備関係に対応できるとこ出ないとなかなか難しくなってくるのではないですか。

司会:後藤さんはオーナー一族ではないところ での苦労があったかと思いますが。

後藤:昭和40年代に来た時に、今みたいなコンテナが無かったので、沖で降ろして艀で川を持ってきていました。その時手巻きウインチがついていて、その背が高かったので、荷を下ろして空船になって帰るときに浮き上がると橋げたにぶつかってしまうのでどうにかならんか相談を受けて、箱型の艀ウインチというのをメーカーと一緒に考えたのが作りました。いまでも残っていますよ。

司会:「後藤型」と名前を付けなかったのですか?

後藤:いえいえ、そんな、特許をとるとかそうい うことはもうとう無かったから。

司会:船はいろいろな制約条件があって、一般の 汎用品を船用に変えるとか船用独特の仕様にす るということがあって、船用品ってそういうエ 夫をしたり、こんなものはないか?とお客さんに言われたりして探して集めてくるということを船具商はやっていたのではないかと思います。司会:江戸時代から、そうした無理難題を解決する知恵ものとして尊敬されていたところがあるようです。徳川幕府がペリー来航を受けてそれに備えるために大きな軍艦を石川島で作ったのですが、浅瀬に嵌って動かなくなり「厄介丸」と言われてしまった。それを大村五左衛門が新川の酒問屋の酒樽を使って浮かして浅瀬から動かしたという、船具業界では有名な話として残っていて、10年史に記載がありますね。

後藤:船のお客さんから相談があればそれなり に解決策を考えてやっていかなければ続かない ということは有りますね。

帆布、塗料、金物、製造

堀内:船具には帆布の分野もあって、組合員の中で重なるところがありますようね。羽根茂さん、石川さん、加藤さんのところも帆布業界ですね。田中:帆布、ロープ、塗料、船具金物ですね。昭和 40 年代以降は東京の船具屋さん(綱田さんや島田さん)から仕入れて卸して、綱田さんはメーカー的な位置づけで作っていたりしましたね。後藤:確かに私らが入ったときは工場がありま

後藤:確かに私らが入ったときは工場がありましたからね。キングストンというバルブみたいなのを旋盤加工して作っていて。いまは全然作っていませんけれど。

田中:でも、関西の船具屋さんは下請け工場が沢山あって、そこにいろいろ作ってもらって、それを売るという商売をしていますよね。それに比べて東京の船具屋は卸が主で。ただ、そこから抜けて、ワイヤー専門とか、塗料専門とかの専門性を持った商売をするようになったところもありますね。

堀内: 帆布も船のもの専門にやっているところ もあったけれど、陸に上がってテントのような ものを作るようになったところもありますね。 司会: 石川商工さんはそういう意味で、陸に上が って避難用のシューターを作ったということですね。

司会:大阪の船具商というのは江戸時代は江戸 の 2~4倍あって、江戸時代は船具の製造拠点 は大阪にあったようです。江戸はそれらを輸入 (仕入れて)売るという卸売りの形です。江戸後 期になってようやく江戸でも船具を作るように なってきたようです。特に質の高い金物に至っ てはそのほとんどが大阪で作っていたようです。 後藤:なるほど。でも、今は時代が変わって検査 計測関係は関東の方が多いですね。確かに以前 は大阪にもあったのですけれど、ランプなんか は、日本船燈株式会社(昭和11年設立)といっ て昔深川にあったのですが、今は埼玉に移って やっていらっしゃいます。それからコンパス関 係などは大阪に大航計器製作所さんがあります が、いまは佐浦計器製作所で、元は文京区にあっ たのですが、埼玉に移転していますね。日本信号 機さんっていうのもありましたね。

田中:島田燈器さんからも以前は買わしていただいています。

ロープ加工

堀内:大村五左衛門商店の冊子をみると、深川に 月島製鋼工場というのが出来て、後の明治39年 に東京製綱に吸収合併されるんだね。

後藤:今の月島機械さんとは違うんですね? 堀内:違いますね。えらい古い話だけれど。大村 五左衛門が月島製鋼というロープを工索する会 社を明治20年に立ち上げたんね。

良く聞いたよ。うちのおやじから。「大村五左衛 門、大村五左衛門」って(笑)

司会:会社が大きくお偉いさんになって政治などをやっていたようで、あまりお店には出ておられなかったようです。19代目と20代目の最後の時に加藤さんは知っていらしたようです。 堀内:石川さんのとこからは、結構ロープの加工業者育っているんだね。 枝分かれでね。 的場さん、岩田さん、道元さん、永代橋のところにあり

ましたね。

司会:このあたりには、本当にたくさんそうした会社があったんですね。

後藤:まぁ、私が東京に来たばかりの頃は、都電が走っていましたからね(笑)。

堀内:永代から目黒行の都電とかね(笑)。

後藤:あの当時、昭和41年でしたが、会社にそんなに車があるわけではないので、都電でお客さんのところに永劫に行けって言われて歩いて行っていましたからね。

後藤: 丸の内の北口が起点でね。あるいは月島から両国までとかあって。錦糸町行とか亀戸行とか。

堀内:あのね。よく、都電の線路の上に五寸釘を 置いてさ、電車が通過すると潰れるでしょ?そ れを尖らせて竹の先につけてやりみたいなのを 作っていたな。

司会:加藤さんも都電に乗って営業なさっていましたか?

加藤:乗った記憶はあるけれど、基本的にはあまり営業しなくてもよかったような気がするな。 近場の太陽船具さんとか三洋商事さんは歩いて行ける範囲だから。でも、芝浦なんかは車で送ってもらったりしていましたよ。ニッコウ商事とか。都電の電車でも行きましたね。浜松町から垂見さんのところに行くとか。歩きは苦にはならなかったですね。

堀内: 垂見さんは横浜の方が本家ですよね。

加藤:そうですね。

江戸時代からの河川舟運の歴史

田中:ここに10数冊「家訓永続記」という書き物が残っています。江戸時代、北村商店というのが、河川舟運をやっておりまして徳川家康が江戸幕府を作るにあたって、水害を無くさないと江戸の町に住めないということで、開削工事をして今の利根川に水を流すように治水工事をしたわけですが、そこから利根川から江戸川に抜けて船の物流が出来るわけですが、その時に千

葉県の関宿という場所 (千葉県野田市関宿町。利根川の中流の栗橋から少し下ったところで、江戸川に分岐するところ)を要所にして、そこで手形というか通行料を取ってそこで、船具などの供給をしたり、船を仕立てて江戸川を下る。味噌、醤油、大豆など、それと干鰯(ほしか)と言われる鰯を干したものを肥料として使っていたものをあるかっていたようです。ここに書いていることは下世話なこと(女遊びするなとかね)会社の帳簿をしっかり締めてとか書いてあるのですが。

毛利:これはいつ頃書かれたものなの?

田中:江戸の安政(1855~1860) ごろのようで すね。

いわば会社というか商売人がどうやったら生き 残れるかと言う様な家訓を残してくれたもので す。

今、商工会議所がこのような小冊子を作ってい て「老舗塾」というのを作っていて、江戸から引 き継いだ文化を海外に知らしめて行こうとして います。そのつながりの中で江戸、特に河川舟運 の中で、日本橋の河岸に船をつかっていろいろ なものを、船を使って流通させていた。その時の 歴史がわれわれとしてはそういうものを根本に は持っているので、ここに連携をとれば違う意 味で船・船具商の歴史というのを見ていただけ るのではないかと思います。そういう時代背景 があって、いまオリンピックに向けていろんな 活動をしているわけですが、そう言うことと連 携することによって船具組合ということも多少 皆さんに知っていただける、そういう言う歴史 がある団体があるのだということを知っていた だけることになるのはないかと思います。

それと、もう一つ、国土交通省の関東運輸局で「かいこう館」というインターネットのホームページがあるのですが、そこは関東小型船工業会、関東舶用工業会の2団体があり、そこに東京船具同業組合もいれていただいています。そこも一つの連携になります。そうすると、船づく

りから船の運航をになう人たちのネットワークが出来ると思いまうす。そういう意味でこういうことを立ち上げることにより、他との連携をしてあげると、多少皆さんのポジションというものが上がっていくのではないかと思います。そこから、皆さんがそれぞれ動いていらっしゃる企業活動に結びつくようになればいいのかなと、思います。

そうすればこの「海」という世界を担ってらっしゃるネットワークの中に組み込まれていくのかなと思っているんですね。

司会:江戸時代の文献を調べると田中産業さん のルーツの十一屋さんがところどころに出て来 るんですよ。

田中:歴史は古いですが、大きく成ったり小さく成ったり変遷が激しいです。歴史だけは古いので、船具組合の歴史の流れを作って船具組合をアピールしていけばいいのかなと思っています。司会:船の業界も厳しいですが、無くなることは無ので、そこで生き残り、生業として成り立つようにしていきたいですね。

後藤:日本の周りは海なので、そういうものがどうしても必要ですよ。例えば埋め立ててビルを建てるにしても、(船というものが)絡んでくるわけですね。

司会:田中さんのとこは元々、苧麻(ちょま)問屋ですね。江戸時代ロープは麻製で苧麻問屋が今のロープ産業と同じで、ロープ産業から幅広い船具全般に変わっていったんですね。

焼玉エンジン

後藤: 昔話になって申し訳ないけど、今のディーゼルエンジンだったら直ぐに掛かりますが、船のエンジンは焼き玉エンジンという始動式だったんですよ。花火というかタバコの火みたいなものとがあってそこに火をつけてエンジンを温めてからでないと船のエンジンが掛からなかったんですよ。

堀内:そうだね。ディーゼルエンジンは暖めない

とダメだったね。漁船などは朝早くエンジンが 掛かりにくいですよね。それで、私が入社した当 時、始動薬というのは当時まだかなり出ていま したね。今はそんなもんないですけどね。

木船のための犬釘などは鍛冶屋さんが作っておりましたね。

司会: 堀内さんのとことは、今、船具の取り扱いはどんなことになっていますか?

堀内: 今ほとんどないですね。

後藤:ただ、作業船関係のロープはありますよね?

堀内:まぁ、緊急でなんでももってこいってい う、それこそ船具商だね。

一番大きかったのは沖ノ鳥島の工事の第一期に 関わらせていただいて、その時はそれこそイン スタントラーメンから花火まで用意して。何も することが無いので船の上で花火をするんだっ ていうことでね。それから、釣り道具一式、それ も大物用の。それらをいろいろ買って納めたこ とがありますよ。花火は浅草の方へ行って買っ てきた記憶がありますね。小型の発電機から何 から全部だものね。ワイヤーロープなんか少な かったかな(笑)。曳航用のロープは補助として 積んでおかなければならないので、それは入れ ましたど。

司会:綱田さんのところもそうした、細かいもの 集めみたいなこともしましたか?

後藤:昔はやっていましたね。今はもうないですけど、昔はウイスキーをちょっと品物の名前を変えて積んでおいてくれなんてね。(笑)

堀内: そういう点では昔、ロシアの船に鋼材を積むときに、安い時計と日本人形をあげるんですよ。そうすると数をごまかしてくれるんですよ。で、ついでに安いウォッカをくれるらしいんだけど飲めたもんじゃないって言っていたな。

後藤:船具屋っていうのは、船の要望に応えてな んでもやるというのがありましたね。

東京船具同業組合 組合員 名簿・会社紹介

1	石川商工 株式会社	東京都文京区白山4丁目25番6号
2	イワムラトレーディング 株式会社	東京都東五反田 1-21-9 ウィスタリア東五反田ビル 4 階
3	オンズマリネット/田中産業 株式会社	東京都中央区新富2丁目12番4号
4	加藤船用品工業 株式会社	東京都江東区深川 2-1-7
5	興亜化工 株式会社	東京都中央区東日本橋 2-13-9
6	国際化工 株式会社	東京都千代田区九段北 1-12-4
7	コンドーテック 株式会社 東京支店	東京都江東区南砂1丁目9番3号
8	株式会社 三共商店	東京都中央区八丁堀 4-14-8
9	三福商事 株式会社	東京都墨田区業平3丁目7番12号
10	三洋商事 株式会社 東京支店	東京都中央区新川1丁目17番25号
11	三容商工 株式会社	東京都千代田区内神田 2-4-2
12	芝浦船用品 株式会社	東京都港区海岸 3-24-13 枡田電気ビル 2F
13	島田燈器工業 株式会社 東京支店	東京都江東区常盤2丁目4番12号
14	杉田産業 株式会社	神奈川県横浜市金沢区鳥浜町 15-9
15	杉田船用品工業 株式会社	東京都江東区常盤 2-10 -9
16	株式会社 鈴春商店	東京都中央区日本橋箱崎町 6-2
17	大洋製器工業 株式会社 東京支店	東京都江東区木場 2-15-12 MA ビル 7F
18	太陽船用品 有限会社	東京都江東区永代 4-3-8
19	株式会社 タイヨーマリビス	東京都江東区新木場 4-3-8
20	田中船用品 株式会社	東京都江東区門前仲町 1-12-5
21	垂見船具 株式会社	東京都港区海岸 3 丁目 17 番 2 号
22	綱田工業 株式会社 東京支店	東京都江東区東雲 1-2-1
23	日本救命器具 株式会社	東京都江東区北砂 7-2-25
24	日本船具 株式会社	東京都港区白金台一丁目5番5号
25	有限会社 羽成製帆所	東京都江東区北砂 7-2-25
26	株式会社 富士ロープ	東京都江東区東砂 1-3-8
27	古沢工業 株式会社	東京都中央区新川 2-6-4 新川 F 2 ビルディング
28	株式会社 ホリウチ	東京都江東区東陽1丁目7番地13号
29	マコト船具 株式会社 東京支店	東京都江東区千田 10 番 12 号
30	株式会社 マトバ	東京都江東区永代 1-7-7
31	株式会社 渡辺船具店	東京都港区東麻布 2-20-7
32	株式会社 ワカスギ 東京営業所	東京都港区三田2丁目8番6号

組合員各社概要

社名 (支店名)	石川商工株式会社
役職・代表者名	代表取締役 保戸田 美賢
住所 〒	〒112-0001 東京都文京区白山4丁目25番6号
電話・FAX	Tel: 03-3811-9596 Fax: 03-3812-5787
ホームページ	http://www.isikawasyoko.com/
e-mail (会社代表)	info@isikawasyoko.com
船舶関係取扱品	□船用品 □塗料 □ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物
	主な取扱製品:
その他の製品・事業	救助袋、避難ロープ
設立年	1913年 大正2年
沿革・事業概要	大正2年4月「石川惣太郎商店」を開業。製帆業者として綿帆布や麻帆布、その他の繊維製品、土木建築用品や船具類の加工販売、避難器具製造販売に従事してきました。堅実な仕事ぶりと安定した品質、もの作りに対する創意工夫により、着実に顧客を増やしていき、昭和14年に事業拡張のために改組し「石川商工株式会社」へと改名しました。現在の主力製品である救助袋は創業当時に考案され、改良を繰り返し、1982年に財団法人日本消防設備安全センターの認定を取得しました。また、救助袋の軽量化等、時代の変化に合わせながら改良を繰り返し、今日に至っています。

LL to (Lots to)) -) - 1
社名 (支店名)	イワムラトレーディング株式会社
役職・代表者名	代表取締役 原田鎭夫
住所 〒	〒141-0022 東京都東五反田1-21-9ウィスタリア東五反田ビル4階
電話・FAX	Tel: 03-6459-3151 Fax: 03-6459-3179
ホームページ	https://iwamuratrading.com
e-mail (会社代表)	iwatrade@beach.ocn.ne.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 □塗料 □ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物
	主な取扱製品: 船用バルブ・配管機材・計装機器・エンジン部品)
その他の製品・事業	工業用バルブ・自動バルブ・粉体機器・重曹洗浄・金属加工品
設立年	1985年5月 昭和60年
沿革・事業概要	弊社は、創設1985年以来、バルブ並びに配管機材の販売に従事して参りました。海外への輸出業務、並びに国内の産業機械、プラント建設等、各お取引先様の需要に誠心誠意お応えしております。近年はあらゆる産業の技術進歩により、大型化、自動化、又、複雑化、等多様化が進んでおります。この様な多様化を見据えて、各産業のニーズにお応えするべく日々研鑽を重ねております。何卒、今後共イワムラトレーディング株式会社へ一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

社名 (支店名)	オンズマリネット/田中産業株式会社
役職・代表者名	代表取締役 田中嘉一
住所 〒	〒104-0041 東京都中央区新富2丁目12番4号
電話・FAX	Tel:03-3551-2461 Fax:03-3551-2477
ホームページ	https://onze1852.co.jp/
e-mail (会社代表)	tanakasangyo-soumu@onze.co.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 □帆布 ☑船舶金物
加加日美/ 木以1次日日	主な取扱製品:
その他の製品・事業	船舶機械・資材、防災安全関連機器・資材、港湾設備・機材、マリーナ設備・機材、水産・漁業関連資材、環境・海洋汚染防止資材、海洋関連エンジニアリング、マリンレジャー関連資材、船舶用品卸、ボート・ヨット、水上オートバイ販売、カタログ・WEB通信販売
設立年	1852年 嘉永5年
沿革・事業概要	弊社の発祥は「黒船来航」の1年前、1852年(嘉永5年)に初代与助が日本橋箱崎町で創業した「十一屋与助商店(麻船具問屋)」にさかのぼります。初代は当時の関宿喜多村商店での修行を経て独立し、おもに高瀬舟等の木造船に使用する麻船具を取扱っていました。近年の田中産業は船舶業務一筋に、造船・海運・港湾・マリンレジャー・エンターテイメント業界に対して取り組み、官庁船、商船、漁船、プレジャーボートとのユーザーに、多岐にわたる事業を行っております。 平成8年に開設したマリンショップオンズマリネット(ONZE MARINET)は、初代の屋号であった十一屋にちなんでフランス語の11(ONZE)と、マリン業界のつながり(マリンネットワーク)を大切にしたいという意を重ねて命名したものです。激動の時代にあって、私たち田中産業株式会社は船舶関連機材商社の草分けとしての永い経験を生かしながら、これからも船舶・マリン業界の包括的サポート企業としてさらなる飛躍をめざして参ります。

社名 (支店名)	加藤船用品工業
役職・代表者名	代表取締役社長 加藤 大作
住所 〒	〒135-0033 東京都江東区深川2-1-7
電話・FAX	Tel: 03-3630-8681 Fax: 03-3630-8683
ホームページ	
e-mail (会社代表)	
船舶関係取扱品	☑船用品 □塗料 □ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物
加加西美尔坎沙西	主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	1939年 昭和14年 (大亜工業)
沿革・事業概要	

社名 (支店名)	興亜化工株式会社
役職・代表者名	代表取締役 溝上 雄一
住所 〒	〒103-0004東京都中央区東日本橋2-13-9
電話・FAX	Tel: 03-5835-2924 Fax: 03-5835-1041
ホームページ	http://www.koa-kako.co.jp
e-mail (会社代表)	sales@koa-kako.co.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 □塗料 □ロープ ☑法定備品 □帆布 □船舶金物
	主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	1942年 昭和17年
沿革・事業概要・ PR	当社は1942年(昭和17年)創業し、人命救助用品製造を通して社会貢献をするという企業理念のもと、船舶・航空機用救難信号及び各種救難防災用品製造販売を行っております。これら製品は、長年に渡る厚い信頼の元、官公庁を始め造船会社、海運会社等へ納品をしており、今後とも企業活動を通じて安全安心な社会創造・維持に寄与して参りたく存じますので、皆様方の一層のご愛顧をお願い申し上げます。

社名 (支店名)	国際化工株式会社
役職・代表者名	代表取締役 長谷川文雄
住所 〒	〒102-3263東京都千代田区九段北1-12-4
電話・FAX	Tel: 03-3263-9457 Fax: 03-3230-1023
ホームページ	http://www.kokusai-kakoh.co.jp
e-mail (会社代表)	sales@kokusai-kakoh.co.jp
船舶関係取扱品	□船用品 □塗料 □ロープ ☑法定備品 □帆布 □船舶金物
加加铁/水块/双四	主な取扱製品:
その他の製品・事業	自動車用緊急保安炎筒、道路作業用信号焔管
設立年	1956年 昭和31年
沿革・事業概要・ PR	当社は、昭和31年の創業以来、火薬の技術を用いた救難信号類(船舶用救難信号、自動車用緊急保安炎筒、道路作業用発炎筒)及び各種発煙筒の製造販売並びに各種救難設備の輸入販売を行っております。これらの製品群は全て、人々の安全を守るという重い使命を担っているため、その性能の向上、品質の硝保には全力で取り組まなければないと思っております。また、これらの事業活動が環境に与える影響を的確に判断し、環境保全活動の継続的な改善を実施して参りたいと考えております。今後とも尚一層の品質の向上及び信頼性の確保を目指し、全社一丸となって努力して参ります。

社名 (支店名)	コンドーテック株式会社 東京支店
役職・代表者名	取締役 東日本営業部長兼東京支店長 浅川和之
住所 〒	〒136-0076 東京都江東区南砂1丁目9番3号
電話•FAX	Tel.: 03-3649-4141 Fax: 03-3649-4146
ホームページ	https://www.kondotec.co.jp/
e-mail (会社代表)	asakawa@kondotec.co.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ □法定備品 ☑帆布 ☑船舶金物 主な取扱製品:ワイヤーロープ・チェーン・ターンバックル・シャックル
その他の製品・事業	土木・建設資材の製造販売・輸出入
設立年	1947年 昭和22年
沿革・事業概要	当社は、2019年で創業72年目を迎えました。 1947年の創業当時は、船舶・艤装品金物の製造から始まり、その製品を建築・土木の世界でも販売することで事業領域を広げていきました。そして、さらに園芸資材や工場内の間接材、電材や鉄道、農業、林業なども視野に入れた活動を行っています。「私たちは未来を築く人材を育て、創意工夫と開拓の精神をもって企業活動を行うことにより、豊かな社会づくりに貢献します」という企業理念のもと、船具業界のみならず、様々な業界に向けて製品・商品を提供し、社会インフラの充実に貢献することを目指してまいります。

	,
社名 (支店名)	株式会社三共商店
役職・代表者名	代表取締役 篠田一志
住所 〒	〒104.0032 東京都中央区八丁堀4-14-8
電話・FAX	Tel.: 03-3552-7881 Fax: 03-3552-8496
ホームページ	
e-mail (会社代表)	sankyo-s@agate.plala.or.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 □帆布 ☑船舶金物 主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	創業:1896年 明治29年 設立:1948年 昭和23年
沿革・事業概要	明治29年の創業以来、八丁堀の地において船具販売一筋で営んでまいりました。 お客様も古くからの方が多く、海運会社、造船所、官公庁等、多岐にわたっております。 長年培ってきた信頼を基に「なんとかします」をモットーとして、近年は各種船用 品の販売だけではなく、お客様のご要望に応えるためコンサルタント業務にも力を 入れております。

社名 (支店名)	三福商事株式会社
役職・代表者名	代表取締役 菅原通明
住所 〒	〒130-0002 東京都墨田区業平3丁目7番12号
電話・FAX	Tel: 03-5608-1021 Fax: :03-5608-1020
ホームページ	http://www.e-sanpuku.co.jp/
e-mail (会社代表)	info@e-sanpuku.co.jp
船舶関係取扱品	□船用品 □塗料 □ロープ 法定備品 ☑帆布 □船舶金物
加加铁体蚁狄加	主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	1950年 昭和25年
沿革・事業概要	当社は1950年創業より、シート、テント、濾過布など産業用工業用繊維資材を販売してまいりました。現在その取扱い分野は、物流、生産、建築、建設、防災、スポーツ、レジャー等多岐にわたっております。また、一般建設業の認可を取得し、テント倉庫等膜構造材の設計施工の態勢を整え、東日本を中心に施工実績をあげております。資材繊維は、超高強力化、耐熱、抗菌性などの様々な機能が現在では付加されております。これらの商品の積極的な導入、用途展開を含め当社は様々な分野に挑戦してまいります。

社名 (支店名)	三洋商事株式会社
役職・代表者名	代表取締役社長 本間 亨
住所 〒	〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番25号
電話・FAX	Tel: 03-3551-8151 Fax: 03-3555-0370
ホームページ	http://sanyotrading.jp
e-mail (会社代表)	tokyo@sanyotrading.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 ☑帆布 ☑船舶金物 主な取扱製品: 法定備品
その他の製品・事業	不動産賃貸業
設立年	1947年 昭和22年
沿革・事業概要	当社は戦後昭和22年9月に創立された会社で2017年(平成29年)9月に70周年を迎えました。創立以来、船舶及び乗組員の安全を守る法定備品を中心に船舶の運航に必要な諸機器・機械を含め乗組員の生活に必要な船用品を取扱い、船具業、海運業、造船業等の関連業界の中で、国内七拠点に支店・営業所をおいて事業を展開し、営業活動をしています。当社は、長年の経験・知識・技術を活かして、IMOで採択検討される海上の安全に関する国際規則やそれに対応する各国の国内法、EU加盟国のMED(舶用機器指令)、船級協会の規則等の改正等をソフト・ハードの両面から研究・開発し、皆様のお役に立ちたいと考えています。また、法定船用品は勿論のこと、本船の環境対策や安全運航に寄与する諸機器・器具等を国内外で精査・検討し、価値ある製品を皆様にご紹介していきたいと考えています。【沿革】昭和22年9月25日 設立、資本金3百万円昭和29年07月 資本金を3.75千万円に増資第2次世界大戦中全国船用品会社を統合して設立された日本船用品統制会社を引き継いだ日本船用品株式会社を合併平成05年10月 資本金を1億円に増資

社名 (支店名)	三容商工株式会社
役職・代表者名	代表取締役 渡邉芳三
住所 〒	〒101-0047 東京都千代田区内神田2-4-2
電話・FAX	Tel: 03-3252-5311 Fax: 03-3232-5315
ホームページ	
e-mail (会社代表)	sanyoshokou@gb4.so-net.ne.jp
船舶関係取扱品	□船用品 □塗料 □ロープ □法定備品 ☑帆布 □船舶金物 主な取扱製品:
その他の製品・事業	綿、ポリエステル帆布、ポリエステルターポリンの縫製加工品、テント、シート
設立年	1961年 昭和36年4月
沿革・事業概要	

社名 (支店名)	芝浦船用品株式会社
役職・代表者名	代表取締役 藤田 裕信
住所 〒	〒108-0022 東京都港区海岸3-24-13
電話・FAX	Tel: 03-6231-0543 Fax: 03-6231-0564
ホームページ	
e-mail (会社代表)	Hironobu.fujita@shibaura-marine.co.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 ☑帆布 ☑船舶金物 主な取扱製品: 船用品の販売、荷役資材の販売
その他の製品・事業	
設立年	創業 1962年 昭和37年
沿革・事業概要・ PR	当社は東京都港区に拠点を置く船具屋でございます。 船舶用法定備品をはじめとして航海灯、塗料、荷役資材、建設資材など、お客様の ニーズに合わせ様々な商品を取り扱っております。 このたび皆様のお陰様をもちまして今年で設立58年を迎えることが出来ました。 これからも感謝の気持ちを忘れることなく事業に専念してまいります。今後ともよ ろしくお願い申し上げます。

社名 (支店名)	島田燈器工業株式会社 東京支店
役職・代表者名	代表取締役 島田雅司
住所 〒	〒135-0006 東京都江東区常盤2丁目4番12号
電話・FAX	Tel: 03-3634-0277 Fax: 03-3633-0375
ホームページ	http://www.shimatonet.co.jp
e-mail (会社代表)	tokyo@shimatonet.co.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 □帆布 ☑船舶金物 主な取扱製品: 膨脹式救命いかだ他 救命設備の点検・整備
その他の製品・事業	
設立年	1928年 昭和3年
沿革・事業概要	当社は1928年(昭和3年)に航海灯メーカーとして大阪で創業し、その後の業容の変化や業務の拡大により、法定備品・法定船用品を中心に広く船舶用品全般を扱う専門商社として現在に至っております。 東日本へは、1969年(昭和44年)に東京営業所を開設、1971年(昭和46年)には東京支店に改めております。また1977年(昭和52年) 膨脹式救命いかだ整備認定事業場として運輸省(現国土交通省)からの認定を受け、東京島田サービスステーションとして船舶の安全航行及び人命確保に貢献すべく点検・整備体制を確立しております。その他、1981年(昭和56年)に札幌営業所を開設、当社関連会社としては1969年(昭和44年)に本社の検査部門を分離し㈱西日本フジクラを設立しております。当社では2012年(平成24年) ISO9001の認証を取得し、品質の継続的な改善及び顧客満足の向上に努めております。「和と共生」の経営理念のもと、お得意様・仕入先様をはじめ関係各位に常に安心してお付き合いを頂ける企業でありたいと考えております。

社名 (支店名)	杉田産業株式会社
役職・代表者名	代表取締役 杉田恵三
住所 〒	〒236-0002 横浜市金沢区鳥浜町15-9
電話・FAX	Tel: 045-771-3080 Fax.: 045-773-5891
ホームページ	http://www.sugita-ind.co.jp/
e-mail (会社代表)	info@sugita-ind.co.jp
船舶関係取扱品	□船用品 □塗料 □ロープ □法定備品 □帆布 ☑船舶金物
	主な取扱製品: タンカー用係留装置(クイックリリースフック)、本船連絡橋(ギャングウェイ)
その他の製品・事業	都市土木現場用鋼構造物、大型製缶(溶接)、鉄工製品・機械装置のエンジニアリング
設立年	1951年 昭和26年
沿革・事業概要	現在は社会インフラの鋼構造物と機械装置のエンジニアリング業として船具とは業種業態が変わっておりますが、「お客様の要望に応じて工夫」し、「問題を解決してまとめる」という船具商の精神に培われた、技術とものづくりの会社です。昭和26年 杉田船用品工業から独立する形で、永代にて創業昭和30年 中央区越前掘(現新川)に本社ビルを建築し移転昭和30年代 造船所へ艤装金物を納入昭和46年 クイックリリースフック、ギャングウェイの製作を開始。昭和47年 横浜金沢鉄鋼団地に横浜工場を建設昭和59年 東京電力(株)と共同で緊急離脱式ギャングウェイを開発し共同特許登録平成4年~東京湾横断道路(アクアライン)にて総計3万トンの鋼構造品を製作納入平成29年 本社と横浜営業所を統合し、本社を神奈川県横浜市金沢区鳥浜町とする

社名 (支店名)	杉田船用品工業株式会社
役職・代表者名	代表取締役 杉田美知代
住所 〒	〒135-0006東京都江東区常盤 2-10-9
電話・FAX	Tel: 03-6240 6240-2551 Fax: 03-6240-2552
ホームページ	
e-mail (会社代表)	sugita@sugisen.co.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 □帆布 ☑船舶金物 主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	1923年 大正 12 年
沿革・事業概要	大正 12 年の関東大震災後、大村五左衛門商店の番頭をしておりました杉田八郎が独立し、東京都江東区に船具店を開業。以来、現在に至るまで商いを続けております。惜しくも初代杉田八郎は、開業してわずか 10 年足らず47 歳で夭逝し、その後を38 歳の妻よねと幼き子供たちで商売を守り続けたという歴史 があります。 よねの功績は事業面だけでなく精神面でも大きく、現在でも「お客様大切にする」という精神を大事に受け継いでおります。
社名 (支店名)	株式会社 鈴春商店
役職・代表者名	代表取締役 吉野紘一
住所 〒	〒103-0015東京都中央区日本橋箱崎町6-2
電話 • FAX	Tel: 03-3664-0321 Fax: 03-3669-9229
ホームページ	
e-mail (会社代表)	
船舶関係取扱品	□船用品 □塗料 ☑ ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物 主な取扱製品: ワイヤロープ
その他の製品・事業	
設立年	1939年 昭和14年
沿革・事業概要	

社名 (支店名)	大洋製器工業株式会社 東京支店
役職・代表者名	代表取締役 岡室 富夫
役職・代表者名	東京支店 支店長 大西 正敏
住所 〒	〒135-0042 東京都江東区木場2-15-12 MAビル7F
電話・FAX	Tel: 03-3643-3451 Fax: 03-3643-6480
ホームページ	http://www.taiyoseiki.co.jp
e-mail (会社代表)	m-ohnishi@taiyoseiki.co.jp
船舶関係取扱品	□船用品 □塗料 □ロープ □法定備品 □帆布 ☑船舶金物
船舶関係取扱品	主な取扱製品: シャックル、フック、リング、ターンバックル 他
その他の製品・事業	インカスリング、特注品
設立年	1938年 昭和13年
沿革・事業概要・ PR	大洋製器工業株式会社は、玉掛け作業で使用する「シャックル」「フック」「繊維スリング」「吊り天秤」などの玉掛け用具、船舶や輸送の固縛に使用する金物等の総合メーカーです。昭和13年(1938年)船用艤装用の金物メーカーとして創業。戦後、陸上用の金物市場にビジネスを拡大し、建築・土木・運輸など基幹産業の発展を支えてきました。こうした流れの中で、私たちが特に注力してきたのが、「玉掛け」と呼ばれる分野です。クレーンのフックなどに、荷掛けおよび荷はずしの作業であり、厳しい安全管理が求められます。弊社は、独自の視点と経験、アイディアを駆使した確かな製品を提供することで「安全」「安心」「品質」という信頼=「TAIYOブランド」を築き上げてきました。今後も品質、耐久性、作業性、さらには環境にも配慮した製品の開発に取り組み、プロのニーズと信頼に応えていきます。

	T
社名 (支店名)	太陽船用品有限会社
役職・代表者名	代表取締役 川上 二郎
住所 〒	135-0034 東京都江東区永代4-3-8
電話・FAX	Tel: 03-5569-4128 Fax: 03-5569-4120
ホームページ	
e-mail (会社代表)	nk-taiyo@lake.ocn.ne.jp
6八6万月月15万万十五日	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 ☑帆布 ☑船舶金物
船舶関係取扱品	主な取扱製品:
その他の製品・事業	土木建築金物、諸材料一般、生活雑貨
設立年	昭和45年

社名 (支店名)	株式会社タイヨーマリビス
役職・代表者名	代表取締役社長 毛利 光宏 代表取締役会長 毛利 輝夫
住所 〒	136-0082 東京都江東区新木場4-3-8
電話・FAX	Tel: 03-5569-4128 Fax: 03-5569-4120
ホームページ	
e-mail (会社代表)	
船舶関係取扱品	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 □帆布 □船舶金物
加加	主な取扱製品: 塗料、塗装用品、ワイヤーロープ等、救命筏・ボート・法定備品
その他の製品・事業	
設立年	1946年 昭和21年
沿革・事業概要	昭和21年4月 東京都中央区日本橋大伝馬町1-2に大洋産業株式会社として発足昭和21年9月 東京都中央区日本橋茅場町に移転昭和24年6月 商号を大洋船具株式会社と改む昭和24年9月 日本ペイント株式会社特約店となる昭和32年5月 横話神奈川区子安に横浜支店開設昭和40年4月 商号を大洋塗料船具株式会社と改む昭和41年11月 千葉県市原市八幡海岸通2388-29に調色工場を開設昭和51年9月 東京都江戸川区小松川に子会社(株)ニッベ小松川調色サービスセンターを新設平成4年7月 商号を株式会社タイヨーマリビスと改める平成4年9月 東京都江東区新木場に本体社及び調色工場を新築移転

社名 (支店名)	田中船用品株式会社
役職・代表者名	代表取締役 田中伸一
住所 〒	〒135-0048 東京都江東区門前仲町1-12-5
電話・FAX	Tel: 03-3642-4541 Fax: 03-36642-4545
ホームページ	
e-mail (会社代表)	tnkaship@iaa.itkeeper.ne.jp
M M M M M M M M M M M M M M M M M M M	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 ☑帆布 ☑船舶金物
船舶関係取扱品	主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	1953年 昭和28年
沿革・事業概要	

社名 (支店名)	垂見船具株式会社
役職・代表者名	代表取締役 平野 誠
住所 〒	〒108-0022 東京都港区海岸3丁目17番2号
電話・FAX	Tel: 03-3451-1296 Fax: 03-3451-6679
ホームページ	
e-mail (会社代表)	tarumi-sengu@mub.biglobe.ne.jp
かん かん かん かん かん かん ない かん ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 ☑帆布 ☑船舶金物
船舶関係取扱品	主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	1932年 昭和7年
沿革・事業概要	弊社は昭和7年4月垂見船具店として東京港に於いて個人営業を始め、昭和16年9月戦時体制下の企業合同にて東京船用品株式会社に合併致しました。統制解除後の昭和26年4月全員弊社に復帰し、垂見船具株式会社と改組致しました。以来半世紀以上の永きにわたり、お客様のニーズにお応えしてきております。これからも長い経験を活かしながら更なる努力をして参りたいと考えております。

社名 (支店名)	綱田工業株式会社
役職・代表者名	代表取締役社長 綱田 幹人
組合担当者/役職・氏名	専務取締役東京支店長 後藤 勝
A-=r -	本 社 〒550-0022大阪市西区本田4丁目6番地23号
住所 〒	東京支店 〒135-0016東京都江東区東陽1丁目3番地17号
電話・FAX	Tel: 03-3647-2341 Fax: 03-3646-0104
ホームページ	http://www.tsunada.co.jp/
e-mail (会社代表)	info@tsunada.co.jp
	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 □帆布 ☑船舶金物
船舶関係取扱品	主な取扱製品: 船舶用品、陸上土木資材及機器総合商社、膨脹式救命いかだ、救命 設備の整備点検
その他の製品・事業	
設立年	1938年 昭和13年
沿革・事業概要	当社は1938年(昭和13年)の創業以来、半世紀以上の永きにわたり、『信頼される明るい会社』の社是のもと、船舶関連機器、建設関連機器等の専門商社として、北海道から沖縄まで全国各地のお客様のニーズにお答えしております。昭和13年4月創業者綱田明により大阪市西区九条北通に於いて個人商店として綱田商店を開業する。遂次販売路開拓と取扱商品の拡大に努力する。昭和39年4月中国・四国地区の販売拠点として尾道支店を開設する。昭和41年10月関東地区の販売拠点として東京支店を開設する。昭和52年4月筏サービスステーションが運輸省整備事業認定工場となる。昭和63年3月米国クーパーツール社とスリングチェーン及びクランプの輸入国内独占販売を開始する。昭和63年8月米国クーパーツール社、商品の拡販を極東地区全域に展開する為、系列会社綱田チェーンアンドクランプ株式会社を設立する。昭和63年8月大阪支店及び市内営業課の業績拡大の為、本社ビルより大阪市港区に事務所・倉庫を統合し営業の中核として大阪支店を開設(地下)階、地上3階)平成30年4月創業80周年を迎え、10月に記念行事を行う。

社名(支店名)	日本救命器具株式会社
役職・代表者名	代表取締役 栗本 滋雄
住所 〒	〒135-0062 東京都江東区東雲1-2-1
電話・FAX	Tel: 03-6221-3393 Fax: 03-6221-3392
ホームページ	http://www.nickyuco.com
e-mail (会社代表)	
船舶関係取扱品	☑船用品 □塗料 ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物
	主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	1938年 昭和13年
沿革・事業概要	弊社は昭和13年当時の逓信大臣免許製造人(船舶用救命器具製造業者)を統合し創業以来船舶用救命器具の製造販売を行っております。 さらなる品質の向上を目指し平成30年4月ISO 9001/2015版を認証取得し、 今後も時代に合致した製品供給を通じ社会的責任を果たして行きたいと念願しております。

社名 (支店名)	日本船具株式会社
役職・代表者名	代表取締役 南部大気
住所 〒	〒108-0071 東京都港区白金台一丁目5番5号
電話 · FAX	Tel: 03-3447-7272 Fax: 03-3447-7204
ホームページ	http://www.nihon-sengu.co.jp
e-mail (会社代表)	info@nihon-sengu.co.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 □塗料 □ロープ ☑法定備品 □帆布 □船舶金物
70000000000000000000000000000000000000	主な取扱製品:救命器具(救命胴衣、救命浮環、救命浮器、作業用救命衣)
その他の製品・事業	ヨット用資材の製造販売、発泡樹脂製品の加工・販売
設立年	1967年 昭和42年
沿革・事業概要	当社は、昭和42年3月に創業を開始した、船舶用救命器具メーカーです。 創業者である初代社長故南部一彦は、昭和40年ヨットの世界選手権大会に出場した際、近き将来マリンレジャーが盛んになることを確信し、ヨットや船舶用品の専門会社として当社を設立いたしました。以来、ヨットの分野では、セールクロス、部品など資材の販売を行っております。 救命器具では、昭和49年の小型船舶安全規則に基づく、小型船舶用救命胴衣が運輸大臣より型式承認されたことを皮切りに、今日まで救命胴衣、救命浮環、救命浮器など、多数のモデルを開発、製造、販売しおります。 特に海上での作業者には、当社が開発した柔らかくてしなやかな浮力材を用いた、作業用救命衣で安全に寄与しております。 当社は、海上での安全を第一に考え、海に親しむ人々、また海上作業者の安全のために常に新しい製品の開発を進めます。

社名 (支店名)	有限会社 羽成製帆所
役職・代表者名	代表取締役 羽成 敬一
住所 〒	136-0073 東京都江東区北砂7-2-25
電話・FAX	Tel: 03-5606-7910 Fax: 03-5606-7450
ホームページ	
e-mail (会社代表)	
船舶関係取扱品	□船用品 □塗料 ロープ □法定備品 ☑ 帆布 □船舶金物 主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	1919年 大正8年
沿革・事業概要	
<u> </u>	•
社 夕 (古店夕)	井ボ今社 宮 十ロープ
社名(支店名) 役職・代表者名	株式会社 富士ロープ 代表取締役 岩田 憲一
役職・代表者名	代表取締役 岩田 憲二
役職・代表者名 住所 〒	代表取締役 岩田 憲二 〒136-0074 東京都江東区東砂1-3-8
役職・代表者名	代表取締役 岩田 憲二
役職・代表者名 住所 〒 電話・FAX ホームページ	代表取締役 岩田 憲二 〒136-0074 東京都江東区東砂1-3-8 Tel: 03-3640-3315 Fax: 03-3640-3316
役職・代表者名 住所 〒 電話・FAX	代表取締役 岩田 憲二 〒136-0074 東京都江東区東砂1-3-8
役職・代表者名 住所 〒 電話・FAX ホームページ e-mail (会社代表)	代表取締役 岩田 憲二 〒136-0074 東京都江東区東砂1-3-8 Tel: 03-3640-3315 Fax: 03-3640-3316 iwata@fuji-rope.co.jp □船用品 □塗料 ☑ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物
役職・代表者名 住所 〒 電話・FAX ホームページ e-mail (会社代表) 船舶関係取扱品	代表取締役 岩田 憲二 〒136-0074 東京都江東区東砂1-3-8 Tel: 03-3640-3315 Fax: 03-3640-3316 iwata@fuji-rope.co.jp □船用品 □塗料 ☑ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物

社名 (支店名)	古沢工業 株式会社
役職・代表者名	代表取締役 古沢 康秀
住所 〒	104-0033 東京都中央区新川2-6-4 新川F2ビルディング
電話・FAX	Tel: 03-3551-5036 Fax: 03-3551-8899
ホームページ	http://www.f-furusawa.jp/
e-mail (会社代表)	
船舶関係取扱品	☑船用品 □塗料 ☑ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物 主な取扱製品:
その他の製品・事業	
設立年	創業 1907年 明治40年 設立 1947年 昭和22年
沿革·事業概要	

社名 (支店名)	株式会社ホリウチ
役職・代表者名	代表取締役社長 堀内 榮一
住所 〒	〒135-0016 東京都江東区東陽1丁目7番地13号
電話・FAX	Tel: 03-5683-1471 Fax: 03-5683-1470
ホームページ	http://www.horiuchi-web.co.jp/
e-mail (会社代表)	info@horiuchi-web.co.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 □塗料 ☑ロープ □法定備品 ☑帆布 ☑船舶金物
加加口铁体权权和	主な取扱製品:各種ロープ、ロープ付属金物、シート、ダンネージ、ブイ、アンカー
その他の製品・事業	揚重機、ウインチ、クレーン販売、建設機械器具レンタル
設立年	1955年 昭和30年
沿革·事業概要	私たち株式会社ホリウチは、ロープの専門知識を駆使し、昭和30年創業以来、永年にわたり建設業界、鉄鋼業界、海洋業界に関わり、ワイヤロープ・繊維ロープの加工・販売に情熱を傾けてまいりました。昭和30年 ワイヤロープ販売を目的に中央区新川に㈱堀内商店設立昭和42年 木更津市に君津営業所を開設する昭和60年君津営業所を木更津おろし団地内に新築移転すると同時に木更津営業所として開設する平成元年 商号を株式会社ホリウチに変更平成3年 江東区東陽に東京支店を開設する平成7年 堀内祭一が代表取締役社長に就任平成8年 千葉県市原市に千葉営業所を開設する平成11年 愛知県東海市に日本製鉄名古屋製鉄所内に名古屋営業所を作る平成21年 資本金を5000万円に増資平成24年 木更津ロープセンターが『ISO 9001:2008/JIS Q9001:2008』を取得

社名 (支店名)	株式会社マトバ
代表者/役職・氏名	取締役社長 的場久雄
住所	〒135-0034 東京都江東区永代 1-7-7
電話・FAX	T: 03-3641-0930 F:03-3630-3089
ホームページ	
e-mail(会社代表)	
船舶関係取扱品	□船用品 □塗料 ☑ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物
	主な製品(ワイヤーロープ、繊維ロープ)
その他の製品・事業	
設立年	創立 1924年 大正13年
沿革・事業概要・PR	ワイヤーロープ加工販売、付属金物販売、繊維ロープ加工販売

社名 (支店名)	株式会社渡辺船具店
役職・代表者名	代表取締役社長 渡邊貞滿
住所 〒	〒106-0044 東京都港区東麻布2-20-7
電話・FAX	Tel: 03-3585-4566 Fax: 03-3585-4574
ホームページ	
e-mail (会社代表)	watanabe.s.chandler@pure.ocn.ne.jp
船舶関係取扱品	☑船用品 ☑塗料 ☑ロープ ☑法定備品 ☑帆布 ☑船舶金物 主な取扱製品: ワイヤー、バルブパーツ、薬品、厨房用品、計器類、その他
その他の製品・事業	
設立年	1927年 昭和2年
沿革・事業概要	【沿革】 1927年 富山伏木港にて創業 1949年 戦時中一時休業しておりましたが、渡辺船具店として業務再開 1955年 横浜支店開設 1960年 株式会社渡辺船具と改名 東京支店開設 1967年 東京支店を本社に伏木本店を伏木支店に移管 1969年 大阪支店開設 2010年 東京本社に統合して営業 現在に至る

	株式会社ワカスギ
役職・代表者名	代表取締役 門脇 嘉弘
本社住所	〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町2丁目2番地1号
本社電話·FAX	Tel: 078-302-2918 Fax:078-302-2925
組合加入支店	株式会社ワカスギ 東京営業所
住所	〒108-0073 東京都港区三田2丁目8番6号
電話・FAX	Tel: 03-3456-0586 Fax: 03-3454-1544
ホームページ	http://www.wakasugi.ne.jp/
6八九月目15万日 17	☑船用品 □塗料 □ロープ □法定備品 □帆布 □船舶金物
船舶関係取扱品	主な取扱製品:
その他の製品・業務	シール材(パッキン、ガスケット)、ブレーキライニング等の販売、加工。ブロアー、舶用ポンプの販売修理。補修材の販売等。
設立年	1956年 昭和31年
沿革・事業概要	当社は、安藤工業株式会社の総販売元として、若杉佐次郎が昭和13年7月に神戸市兵庫区東出町に於いて創始し、今日まで舶用部品の販売に携わってきました。現在では、日本ピラー工業(株)、大晃機械工業(株)をはじめとした、機械部品、舶用ポンプ、ブロアー、ブレーキライニング及びシール材(パッキン、ガスケット)の加工、販売を中心に営業しております。これからも、全社一丸となり、お客様をサポートする最良のパートナーを目指し、ベストサービス・ベストプロダクトを提供できるよう努めてまいります。

編集後記

創立 70 周年を記念し、東京船具業界の江戸時代からの流れを振り返り、未来への指標 となるようにと考えました。組合員各位には会社概要・沿革などの原稿を依頼しましたと ころ、ご多忙の中、皆様ご協力いただき感謝に堪えません。

然しながら 10 年史を編纂した昭和 35 年の後から令和までの 60 年間の歴史を語るものが少なく、長老の方々に座談会形式で語っていただいたのですが、その他の記録が無い部分の蒐集が出来ず、加えて編集子の力不足で、その全貌を描き得なかった事をまことに申訳なく存じて居ります。それを補う形と言うことではないのですが、これを機に 10 年史の復刻デジタルリマスター版を同時に印刷し、一組みで配布することにいたしました。

2冊を読むことで、その歴史とあり様をより立体的にご理解いただければと思います。

江戸時代からの歴史部分については杉田泰彦氏に全面的に記述していただきました。 丹念な調査を行う努力と各種資料の再構築を再構築し簡潔に表記する卓越した力に深謝 致します。

長い歴史を持つ組合員各社が永く繁栄することと、船具商の魂が営々と継承されることを願っております。

編集委員 杉田恵三 杉田泰彦 田中嘉一

発行日令和 2 年 1 月 20 日印刷日令和 2 年 1 月 20 日

発行所 東京船具同業組合 事務局

東京都中央区新富 2-12-4 田中産業株式会社内